
淀川水系 猪名川上流ブロック (野間川、木野川、大原川)の 当面の治水目標の設定について

1. 猪名川上流ブロックの現状
2. 治水計画の概要
3. 治水事業の概要
4. 当面の治水目標の設定

1.猪名川上流ブロックの現状

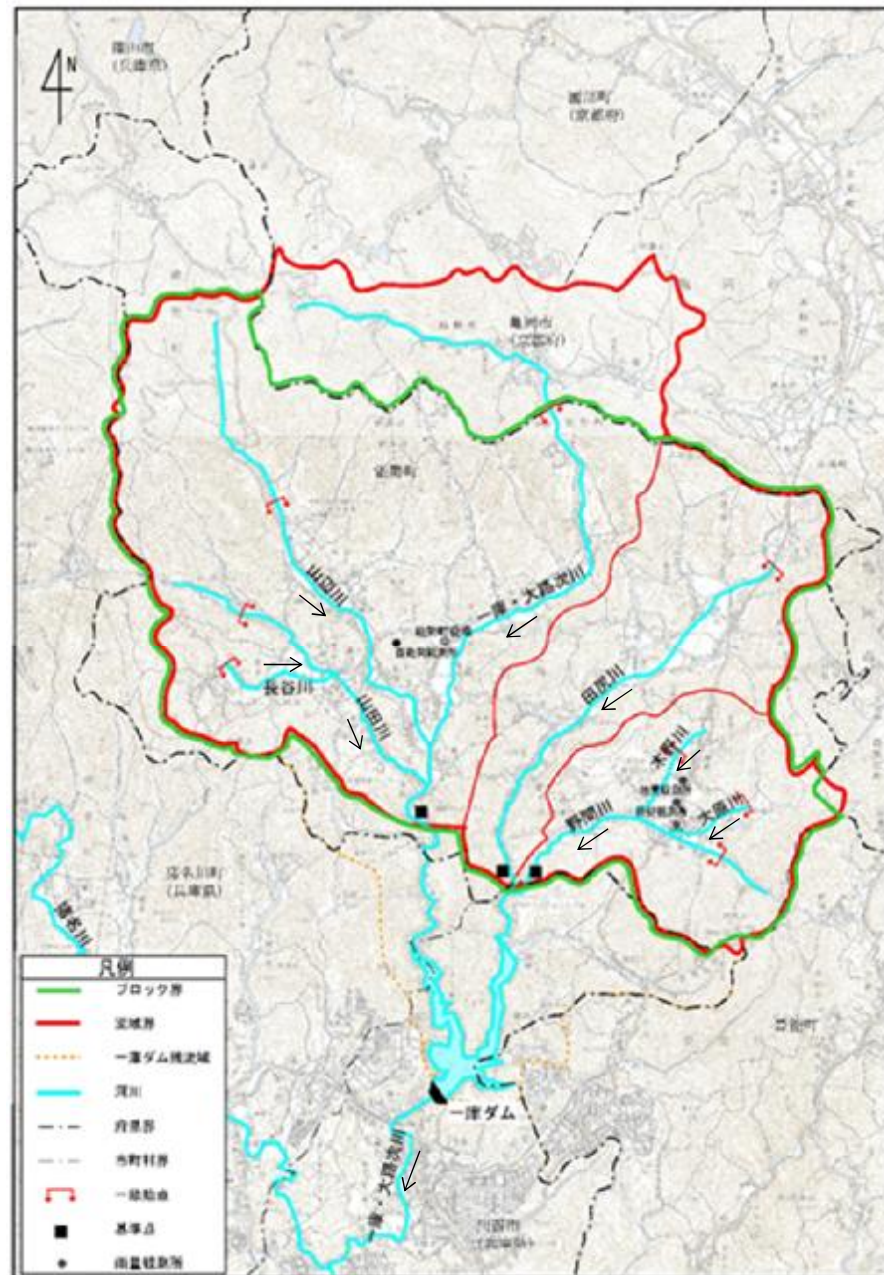
- 猪名川上流ブロックは8河川で構成
- 一庫ダム上流の河川で構成される。
- 流域のほとんどが市街化調整区域。府の中でも、のどかな農村空間の広がる豊かな自然環境が残された地域
- 流域面積の大部分を占める能勢町の人口は平成26年9月末現在で約1.1万人
- 流域内の主要交通
 国道173号、国道477号、府道茨木能勢線、府道亀岡能勢線

河川名	指定区間延長	流域面積
一庫・大路次川	10.4km	63.1km ²
山田川	4.7km	12.8km ²
長谷川	2.1km	4.1km ²
山辺川	5.5km	18.4km ²
田尻川	8.3km	18.2km ²
野間川	4.1km	12.9km ²
木野川	1.8km	3.9km ²
大原川	1.4km	2.6km ²

今回審議対象河川



猪名川上流ブロック位置図



猪名川上流ブロック流域図

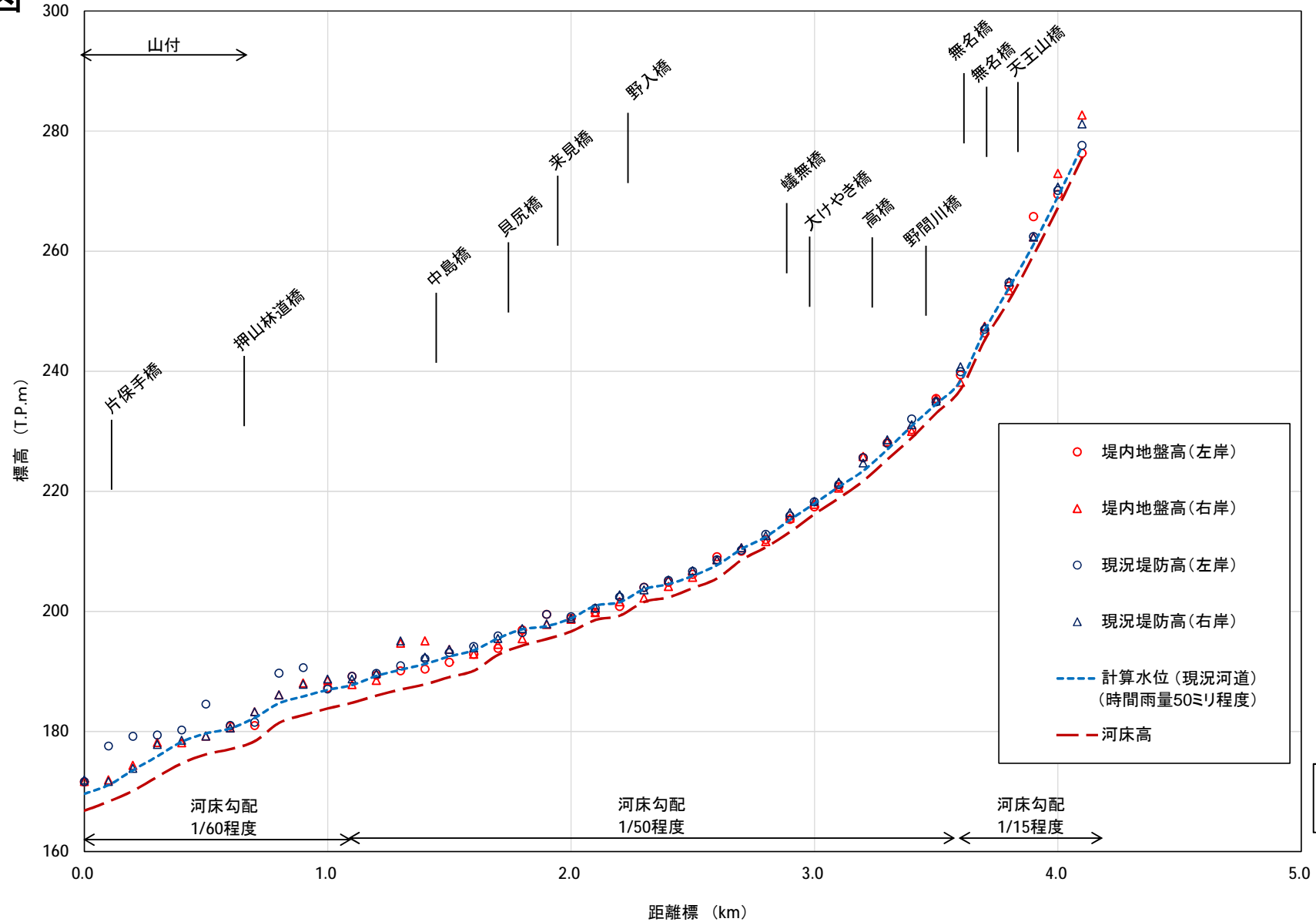
1.猪名川上流ブロックの現状【野間川】

- ・下流域は河床勾配1/60程度で、左右岸とも山付となっている。
- ・中流域から上流域にかけて河床勾配1/50程度～1/15程度で、堤内地は主に農地となっている。
- ・中流域の沿川には家屋が点在している。



1.猪名川上流ブロックの現状【野間川】

●縦断図



1.猪名川上流ブロックの現状【木野川、大原川】

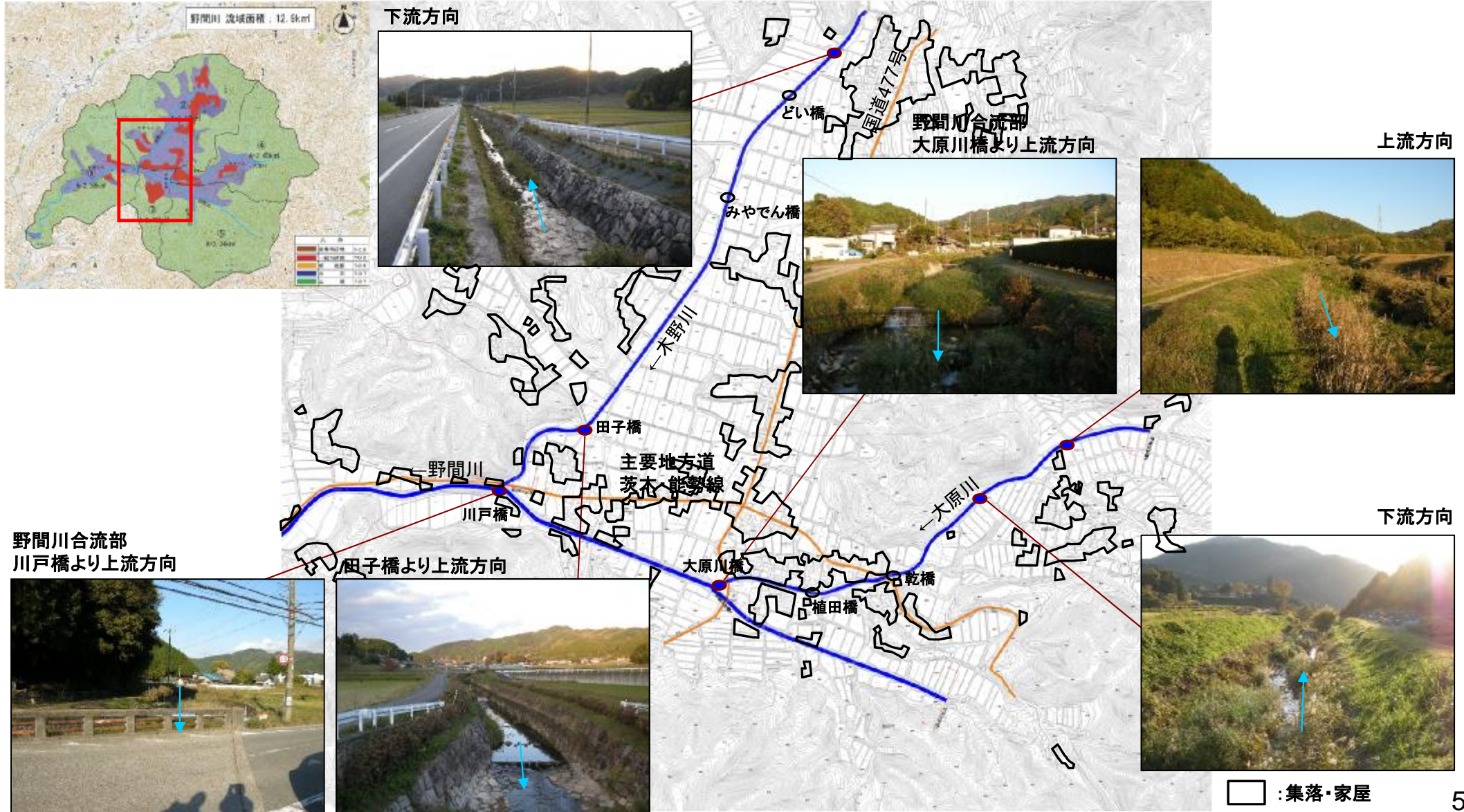
●木野川

・河床勾配1/90程度～1/40程度で、東部の国道沿いに家屋が点在しており、沿川に農地が広がっている。

●大原川

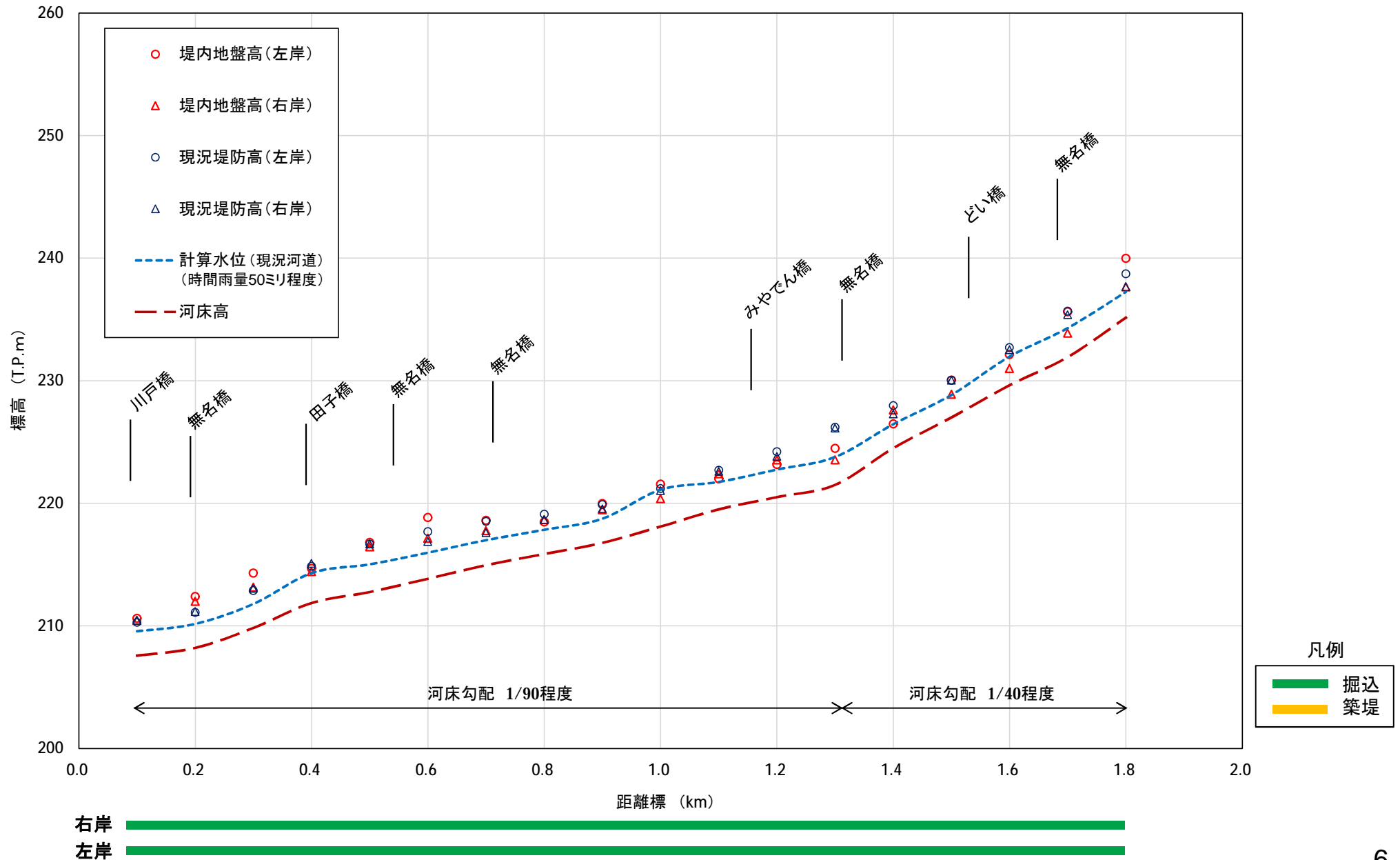
・下流域は河床勾配1/15程度で、沿川に家屋が立地している。

・中流域から上流域は河床勾配1/15程度で、山間部には農地が広がっている。



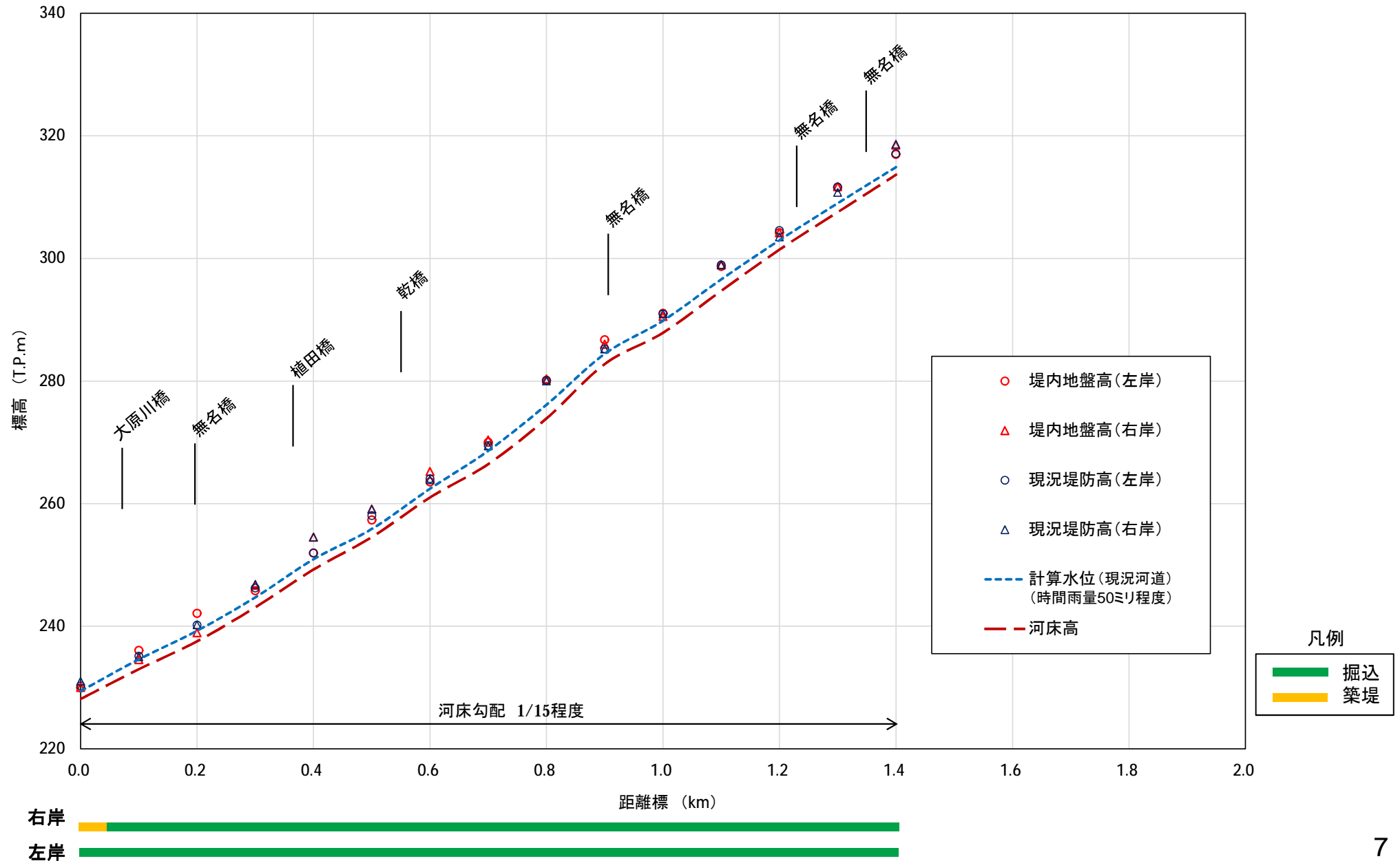
1.猪名川上流ブロックの現状【木野川】

●縦断図



1.猪名川上流ブロックの現状【大原川】

●縦断図



2.治水計画の概要(計画降雨の検証)

①対象降雨量

- ・ 時間雨量 (1/100) : 85.5ミリ
- ・ 24時間雨量 (1/100) : 321.0ミリ
- ・ 日雨量 (1/100) : 283.7ミリ

【豊能地区の降雨強度式】

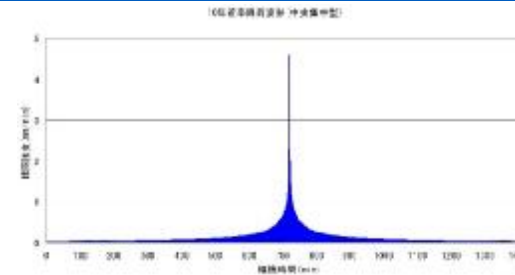
(「大阪府の計画雨量平成8年3月」より算出)

②対象降雨波形

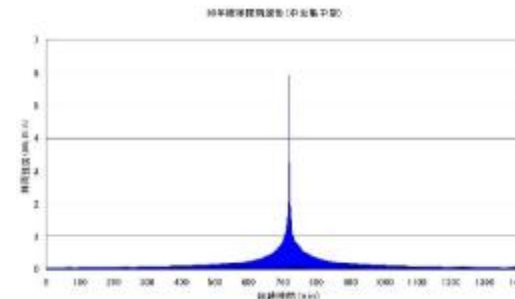
- ・ 中央集中型モデルハイエト

③流出解析手法

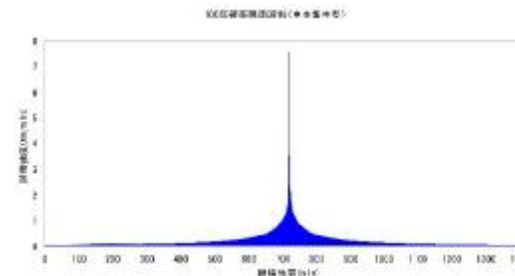
- ・ 合理式
(各河川の流出係数)
野間川 : 0.70
木野川 : 0.71
大原川 : 0.70



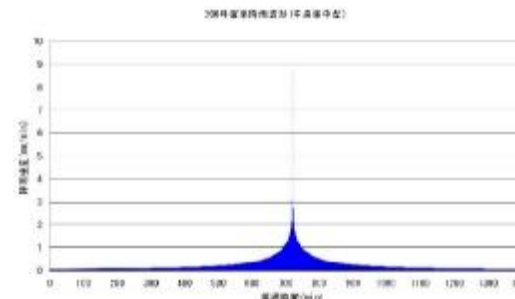
1/10年確立降雨 (58.4ミリ/hr、207.4ミリ/24hr)



1/30年確立降雨 (71.5ミリ/hr、262.2ミリ/24hr)



1/100年確立降雨 (85.5ミリ/hr、321.0ミリ/24hr)



1/200年確立降雨 (93.5ミリ/hr、354.7ミリ/24hr)

2.治水計画の概要(計画降雨の検証)

1) 計画対象降雨

○降雨量については、「大阪府の計画雨量(平成8年3月)」で算出された豊能地区の降雨強度式(1/100)を用いて中央集中型の降雨波形を算定

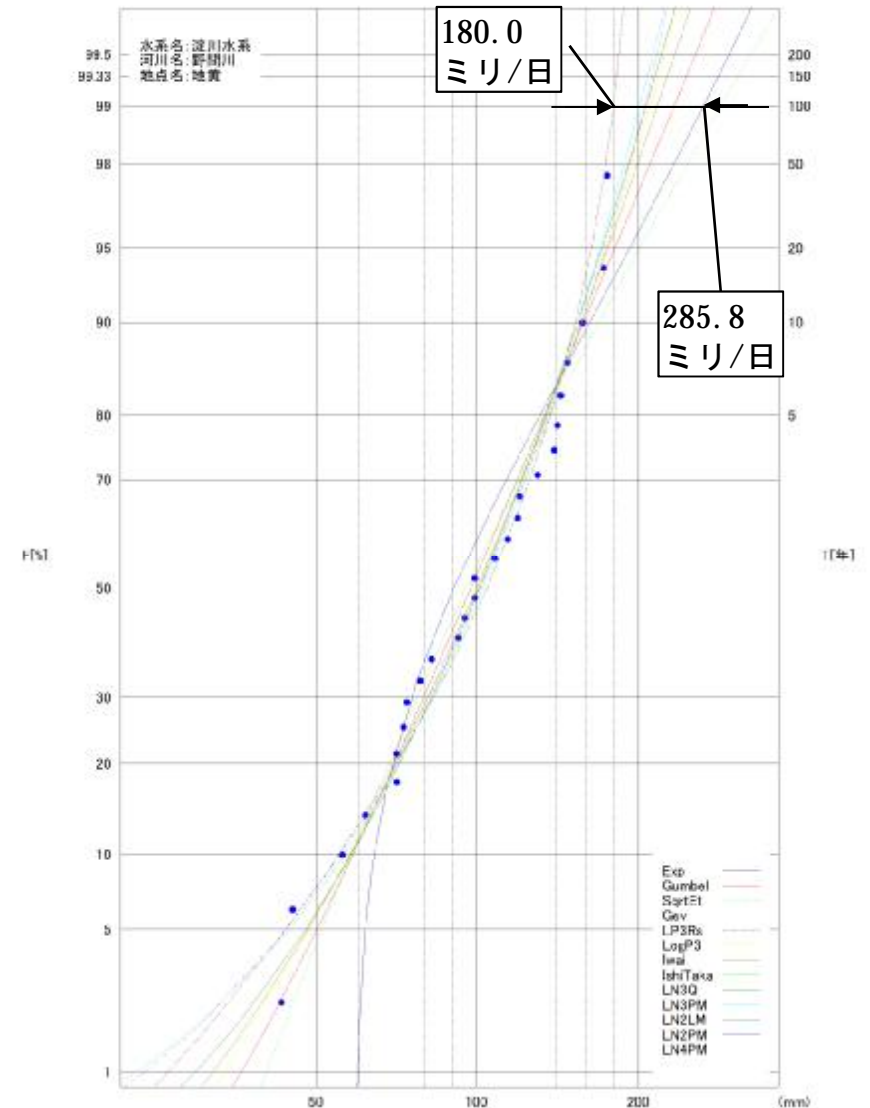
- ・ 時間雨量 : 85.5ミリ
- ・ 24時間雨量 : 321.0ミリ
- ・ 日雨量 : 283.7ミリ

2) 降雨量の検討

- 平成25年度までの豊能地域(地黄地点)における年最大日雨量を整理
- 豊能地域における100年確率日雨量を算出
- 昭和59年から平成25年まで(30年)の年最大日雨量を統計処理した結果、100年確率の日雨量は以下の範囲に入るため、既往計画の日雨量を踏襲する。

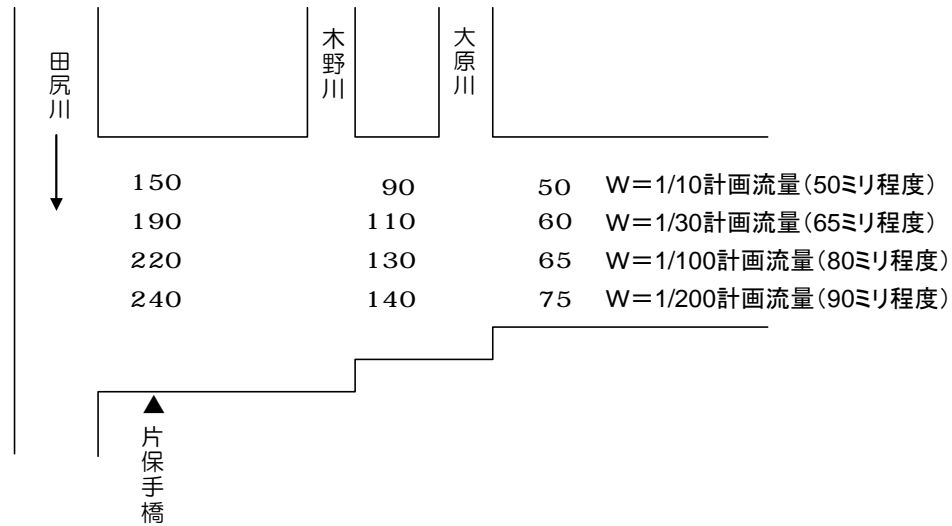
■ 180.0ミリ/日 (対数ピアソンIII型分布(実数空間法))
~ 285.8ミリ/日 (平方根指数型最大値分布)

■ 豊能地域 年最大日雨量確率解析

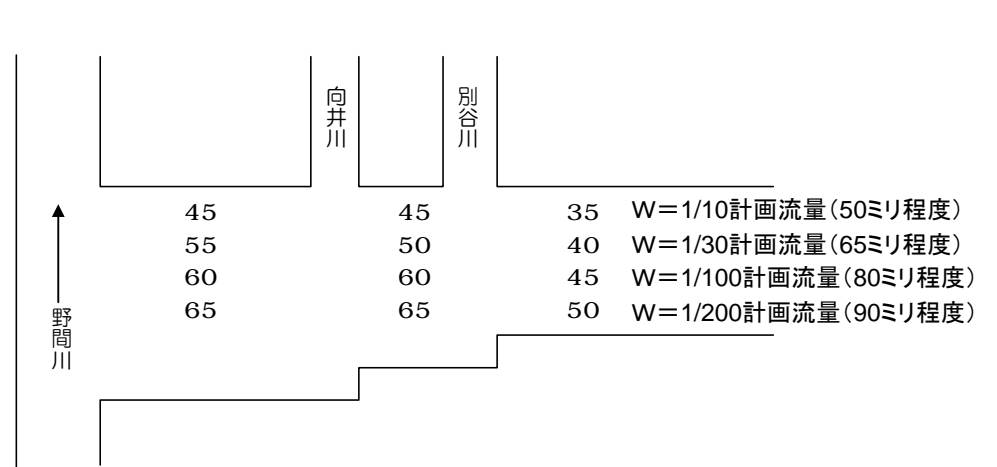


2.治水計画の概要(基本高水流量)

○野間川 流量配分図

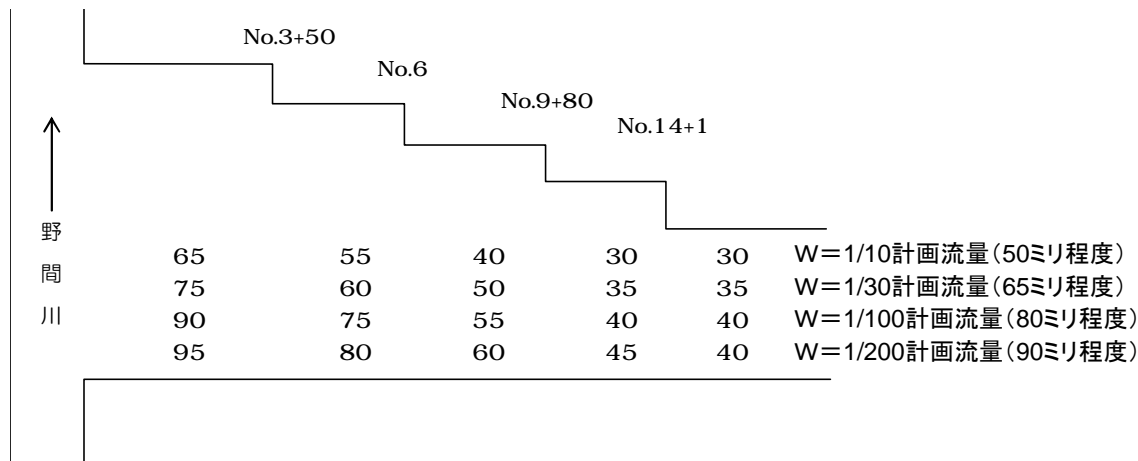


○大原川 流量配分図



単位; m³/s

○木野川 流量配分図



3.治水事業の概要(浸水実績)

- Ⅰ 猪名川上流ブロックでは、本流域は、南向き斜面という地勢上の特徴により、梅雨、秋雨前線により南から湿った空気が流入したり、台風が南方から来襲した際に、たびたび集中豪雨となり、急峻な地形とあいまって過去に幾度となく水害に見舞われました。
- Ⅰ 昭和13年7月の洪水は、『阪神大水害』と呼ばれるほど、記録的な大豪雨で能勢町内において17名の死者が出ました。この洪水では、特に妙見山及び奥の院といった町南東部地域の各所で山崩れが発生し、土石流となって野間川、木野川、大原川流域に大きな被害が発生しました。この洪水を契機として、昭和15年5月に一庫・大路次川、田尻川、野間川などが準用河川の指定を受け、治水対策がはじまりました。
- Ⅰ 戦後においても相次いで洪水が発生しており、昭和28年9月の集中豪雨及び台風13号による洪水で、山辺川や野間川で堤防が決壊し、多数の家屋が浸水するなど大きな被害が発生しました。又、昭和35年8月の台風16号では、町内全域で記録的な豪雨となり、死者3名、家屋全・半壊17戸、床上浸水59戸、床下浸水432戸という大きな被害が発生し、更に、昭和36年9月の第二室戸台風においても山地崩壊による土砂流出や堤防の決壊による浸水が起こり、家屋、田畑に被害が出ました。
- Ⅰ 近年では、平成26年8月の台風11号などによる農地冠水などの被害が発生しています。

過去の主な洪水の記録

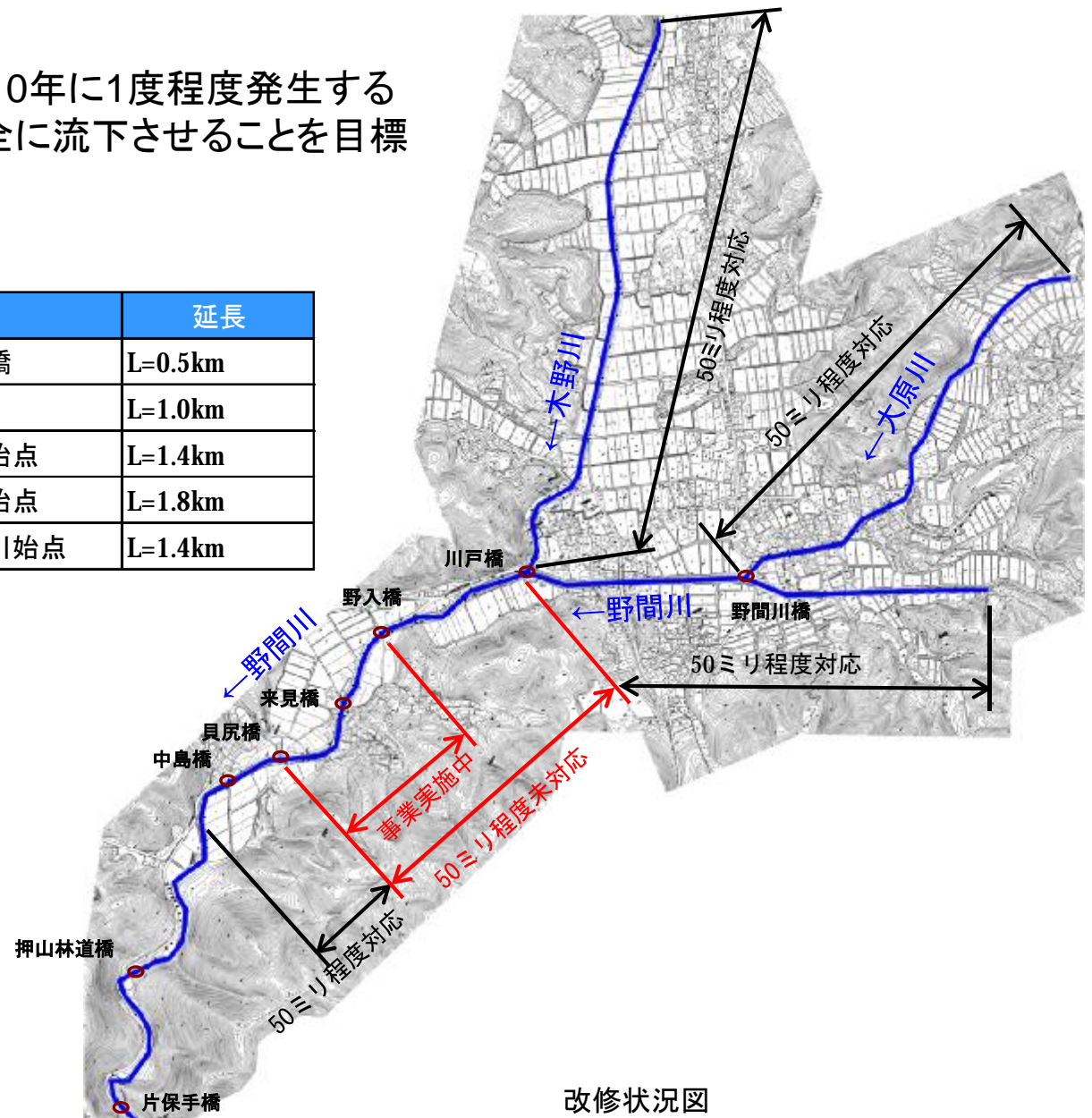
発生日月	災害原因	能勢町における被害
昭和13年 7月4日～5日	阪神大水害	町内各地で山津波・堤防決壊発生
昭和20年 10月8日～9日	集中豪雨	山辺川が決壊し、田畑に大きな損害
昭和25年 9月3日	ジェーン台風	・東郷で氾濫 ・町内で半月停電
昭和28年 9月1日	集中豪雨	・山辺川が増水し、家屋多数浸水 ・山崩れ300箇所
昭和28年 9月28日	台風13号	・家屋、耕地、橋梁、堤防、道路、林野に大被害 ・交通寸断され、町が孤立
昭和35年 8月29日～30日	台風16号	・町内全域で記録的豪雨 ・死者3人、重軽傷者2人、家屋全壊7戸、半壊10戸、床上浸水59戸、床下浸水432戸
昭和36年 9月16日	第二室戸台風	・死者1人
昭和46年 8月27日～9月13日	台風23号 台風25号 台風26号 秋雨前線	・初谷川有堤部溢水
昭和47年 7月12日	集中豪雨	・一庫・大路次川、野間川、長谷川、田尻川、木野川溢水 ・床上浸水1戸、床下浸水8戸、農地浸水36.5ha
昭和51年 9月7日～14日	台風17号	・田尻川、山辺川流域の堤防、道路などの被害
昭和58年 9月30日	台風10号	・木野川流域で浸水家屋14戸、農地浸水10ha
昭和61年 5月13日～7月24日	梅雨期豪雨	・山辺地区を中心に、通信施設、道路、堤防などの被害
平成元年 9月10日	台風19号	・木野川流域で浸水家屋5戸、農地浸水1ha
平成10年 9月	台風7号 台風8号	・田尻川、歌垣橋下流で堤防が決壊
平成16年 10月	台風23号	・田尻川、養鶏場上流で堤防が決壊
平成25年 9月	台風18号	・一庫・大路次川、高野橋上流で堤防の被害
平成26年 8月	台風11号 集中豪雨	・田尻川、歌垣橋下流で農地浸水、府道吉野下田尻線が通行止め

3.治水事業の概要【野間川流域】

- 野間川流域の河川整備計画では、概ね10年に1度程度発生する規模(時間雨量50ミリ程度)の洪水を安全に流下させることを目標としている。

河川の改修状況

河川	改修規模	区間	延長
野間川	50ミリ程度対応	中島橋下流～貝尻橋	L=0.5km
	50ミリ程度未対応	貝尻橋～川戸橋	L=1.0km
	50ミリ程度対応	川戸橋～一級河川始点	L=1.4km
木野川	50ミリ程度対応	川戸橋～一級河川始点	L=1.8km
大原川	50ミリ程度対応	野間川橋～一級河川始点	L=1.4km



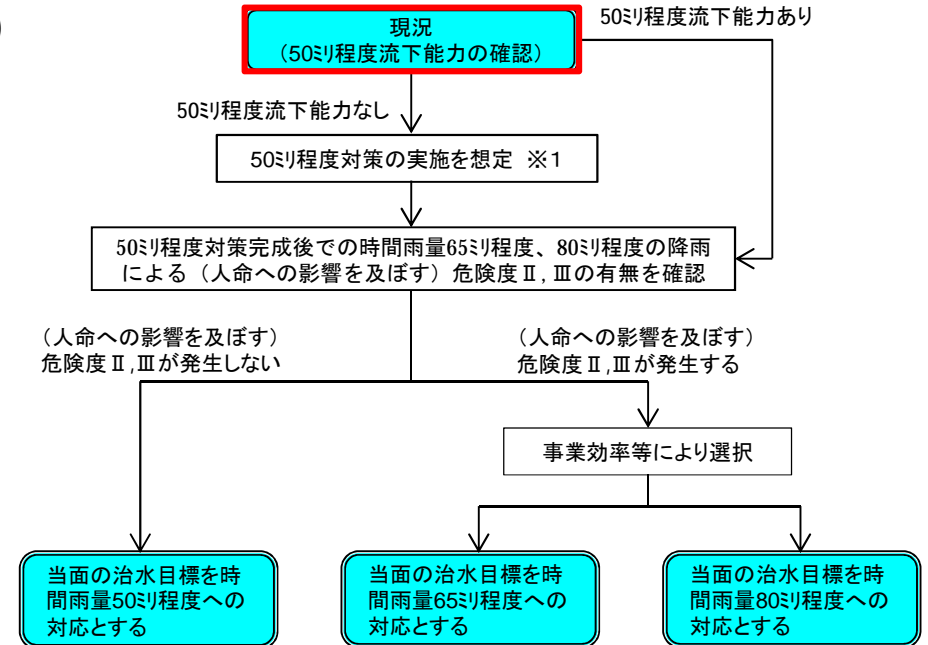
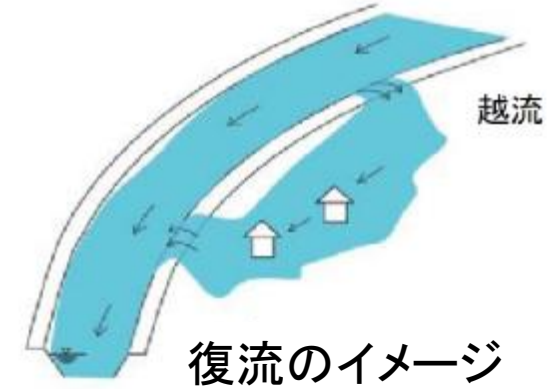
改修状況図

4.当面の治水目標の設定【野間川:現況河道における氾濫解析】

- ◆具体的な検討は『当面の治水目標の設定フロー』に従って実施
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

<解析条件>

- ・現況河道で氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度
90ミリ程度の4ケース（中央集中型モデルハイエト）



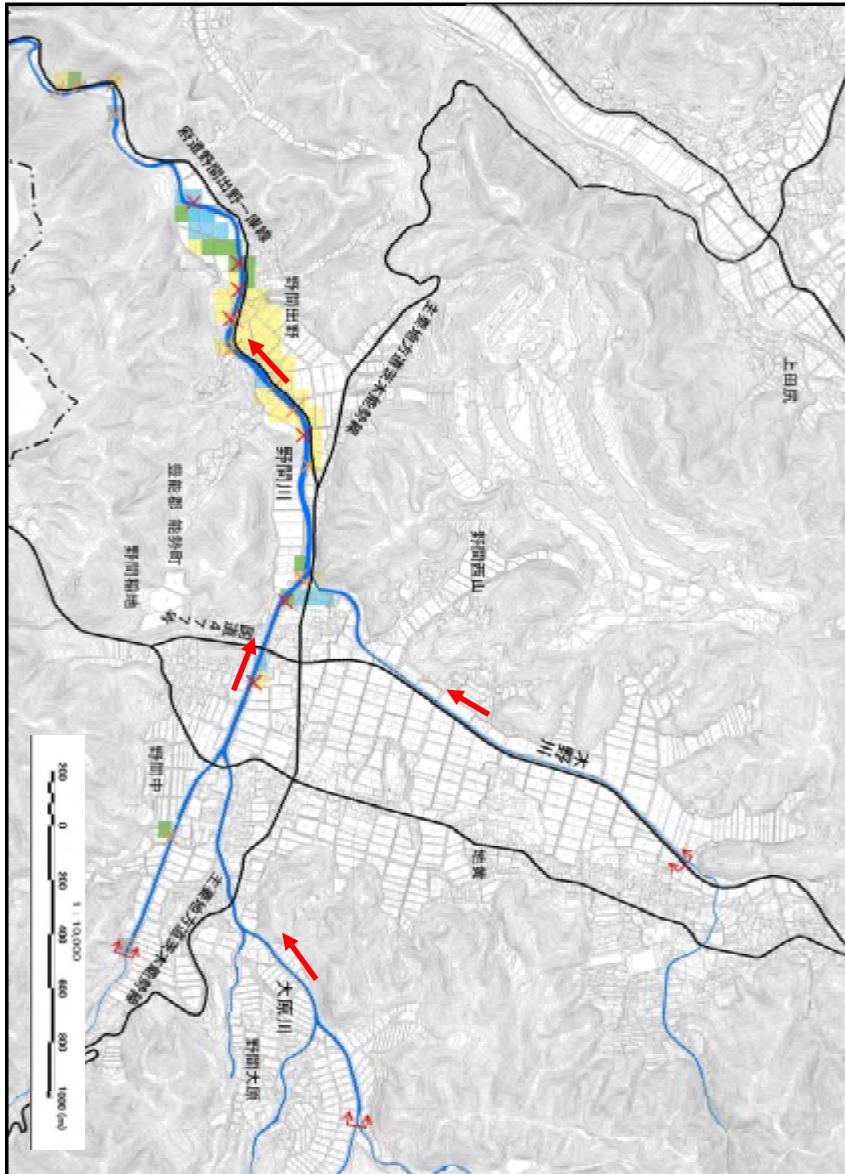
※1:「50mm程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

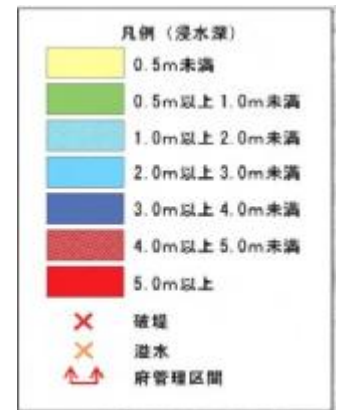
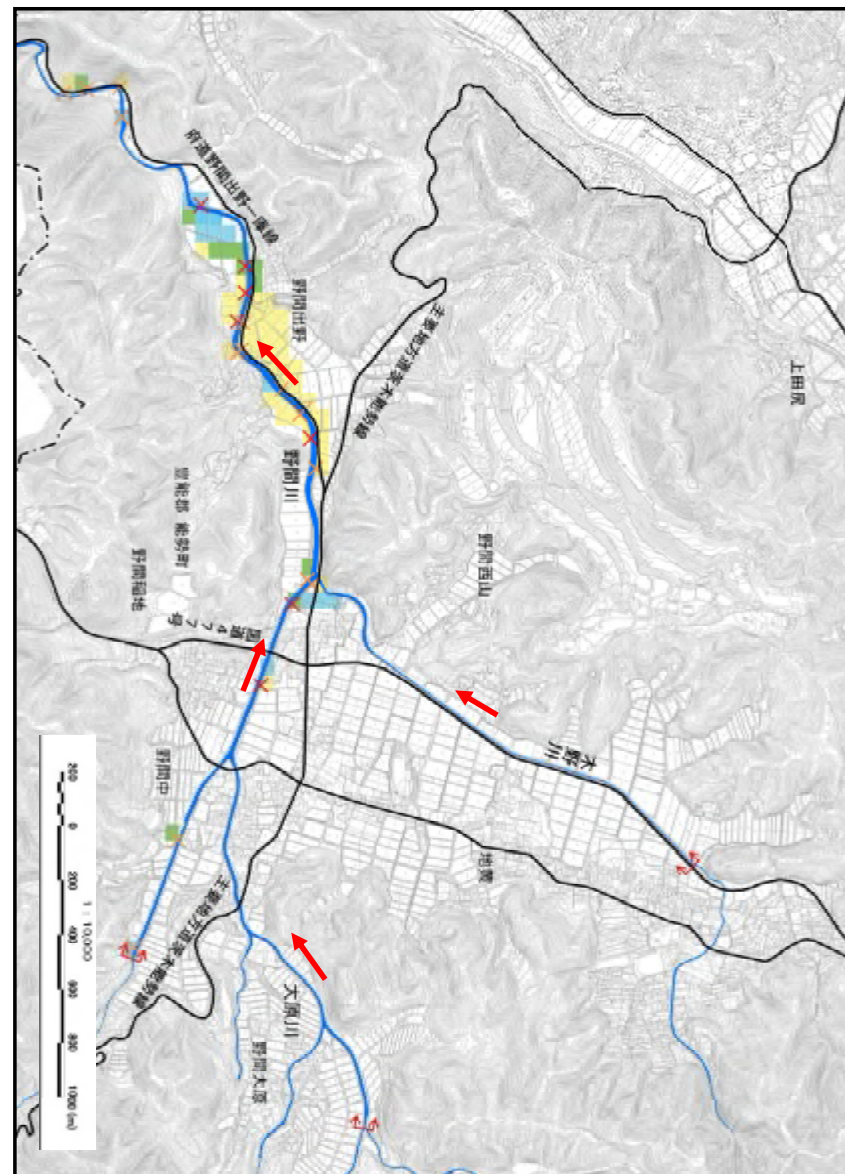
4.当面の治水目標の設定【野間川:現況河道における氾濫解析】

野間川は、現況河道において時間雨量50ミリ程度の雨に対して浸水被害が発生する

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:50ミリ程度



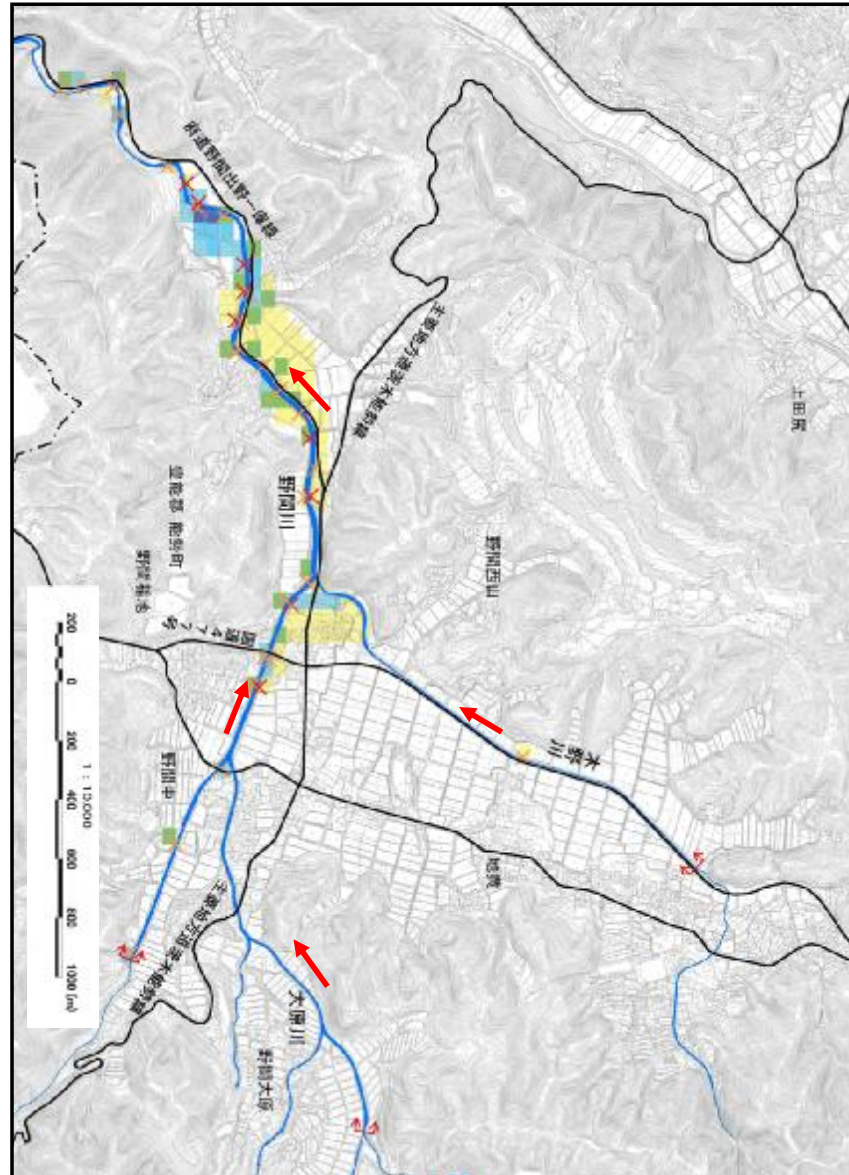
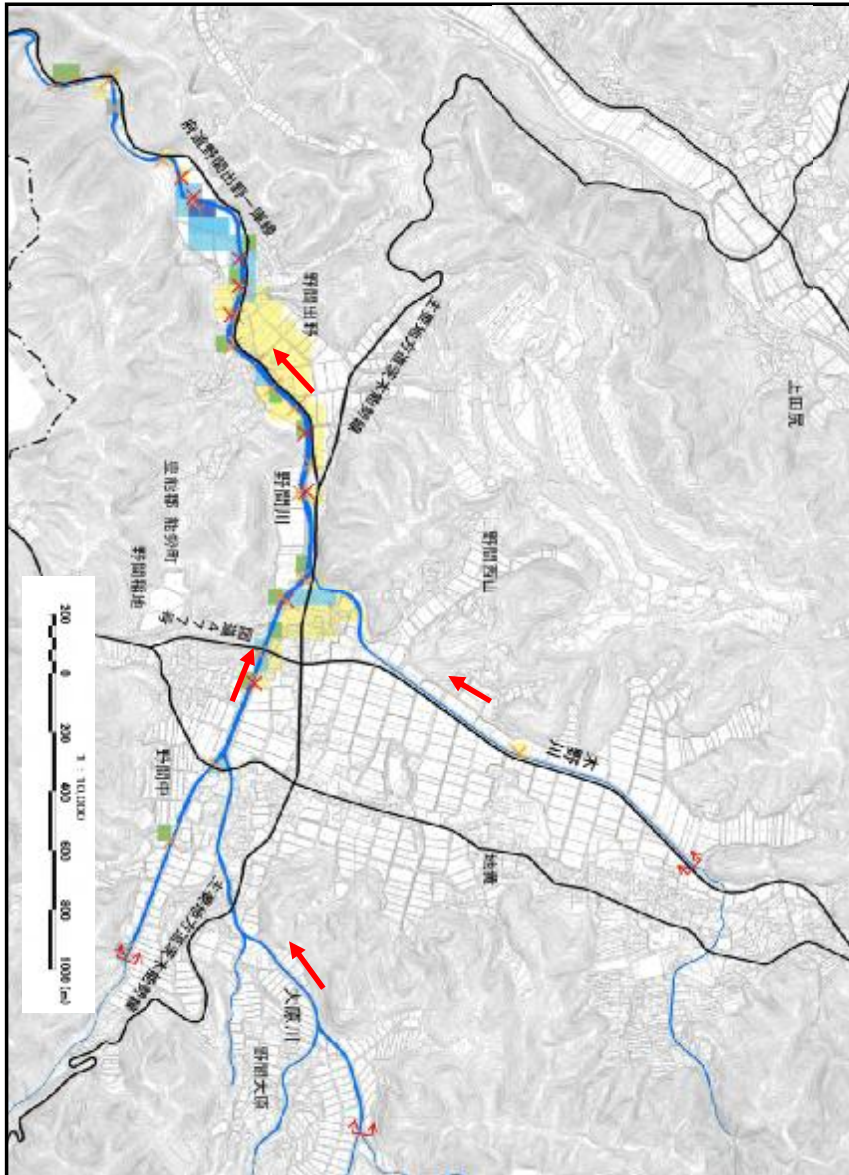
■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:65ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【野間川:現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:80ミリ程度

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【野間川:現況河道における氾濫解析】

◆現況河道(野間川)・・・時間雨量50ミリ程度の降雨で、浸水被害が発生する

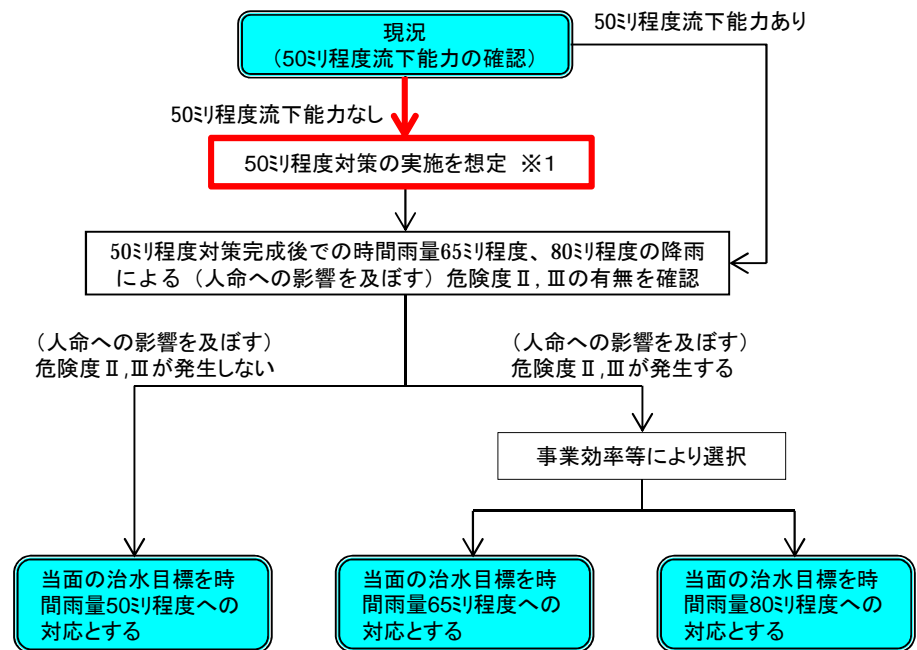


- ・解析結果から、現況河道は「50ミリ程度流下能力なし」と判断【50ミリ程度対策の実施を想定】
- ・50ミリ程度対策の治水手法案を想定し、対策完成後での時間雨量65ミリ程度、80ミリ程度の降雨による危険度Ⅱ、Ⅲの有無を確認する

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10程度)	10.25ha 14人 49百万円	1.75ha 0人 0百万円	被害なし
65ミリ程度 (1/30程度)	10.75ha 14人 49百万円	6.50ha 2人 87百万円	被害なし
80ミリ程度 (1/100程度)	15.25ha 29人 79百万円	9.50ha 28人 321百万円	0.50ha 0人 0百万円
90ミリ程度 (1/200程度)	14.75ha 25人 57百万円	11.50ha 32人 439百万円	0.50ha 0人 0百万円

(発生頻度) ↑ 大
 ↓ 小
 (被害の程度) ← 小 → 大

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

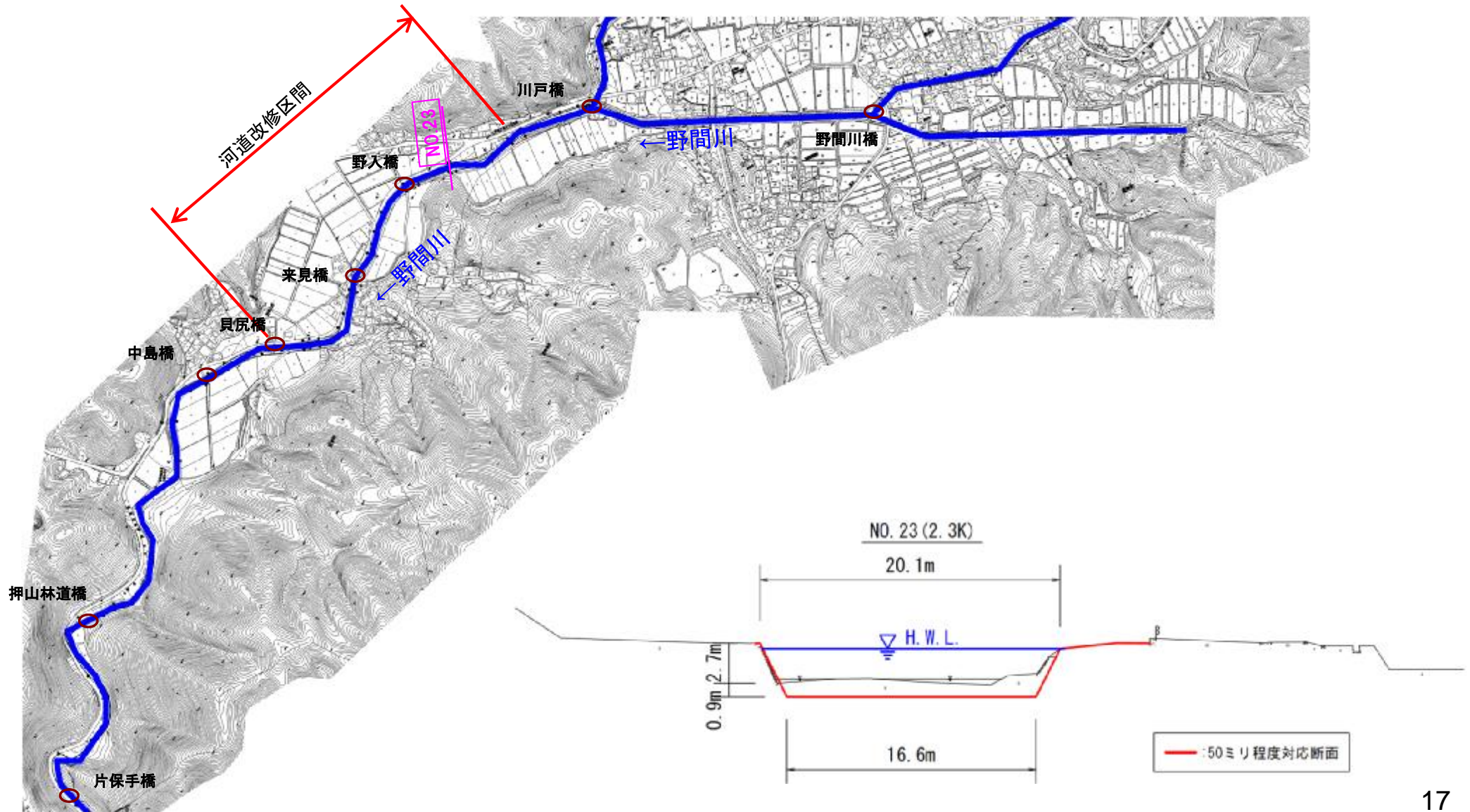


※1:「50ミリ程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【野間川:50ミリ程度の治水手法の想定】

治水手法案として、最も一般的な工事であり、周辺土地利用への影響が少ない河道改修案を治水手法の有力案として設定する



4.当面の治水目標の設定【野間川:50ミリ程度対策後における氾濫解析】

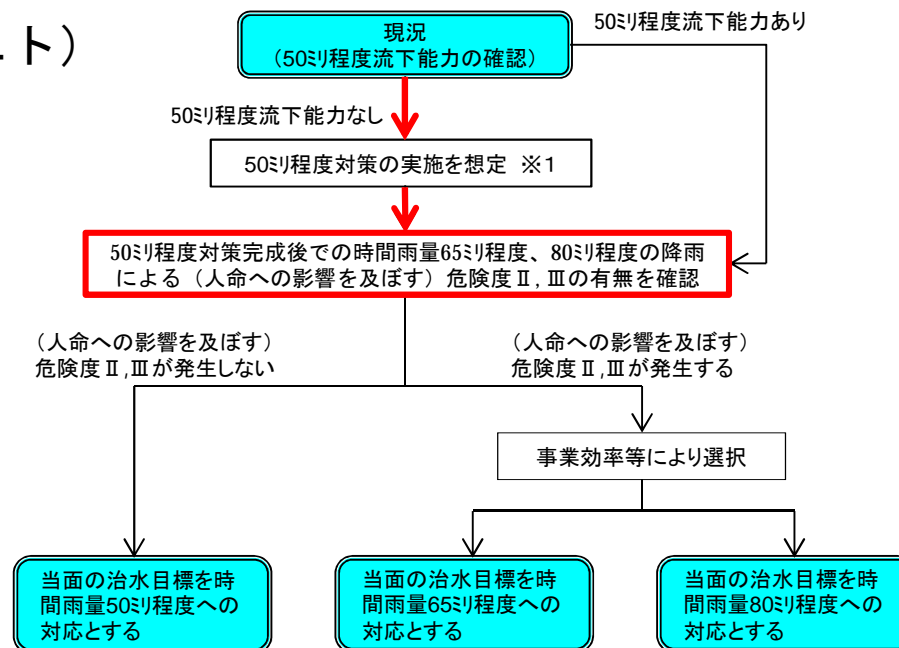
- ◆50ミリ程度対策後における危険度を氾濫解析により確認
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

<解析条件>

- ・50ミリ程度対策後を想定し、氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量65ミリ程度、80ミリ程度
90ミリ程度の3ケース(中央集中型モデルハイエト)



野間川流域図

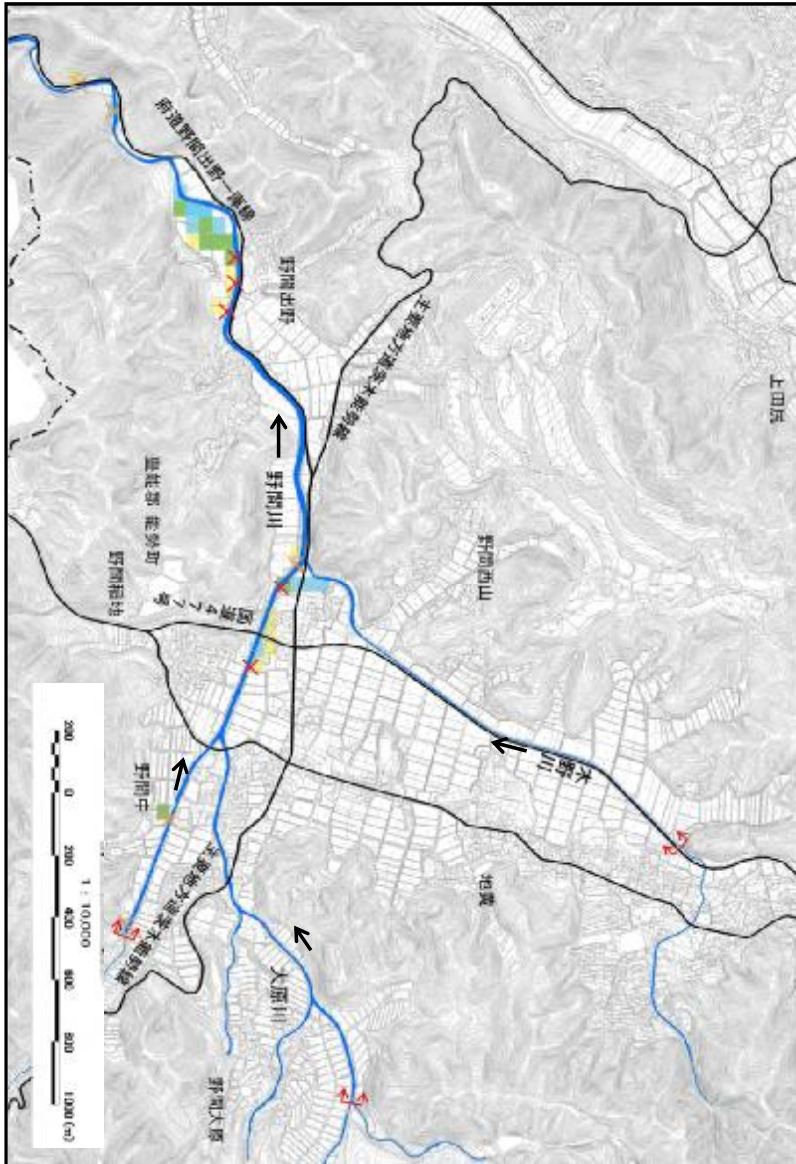


※1:「50ミリ程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

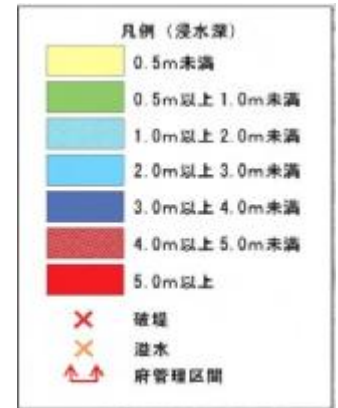
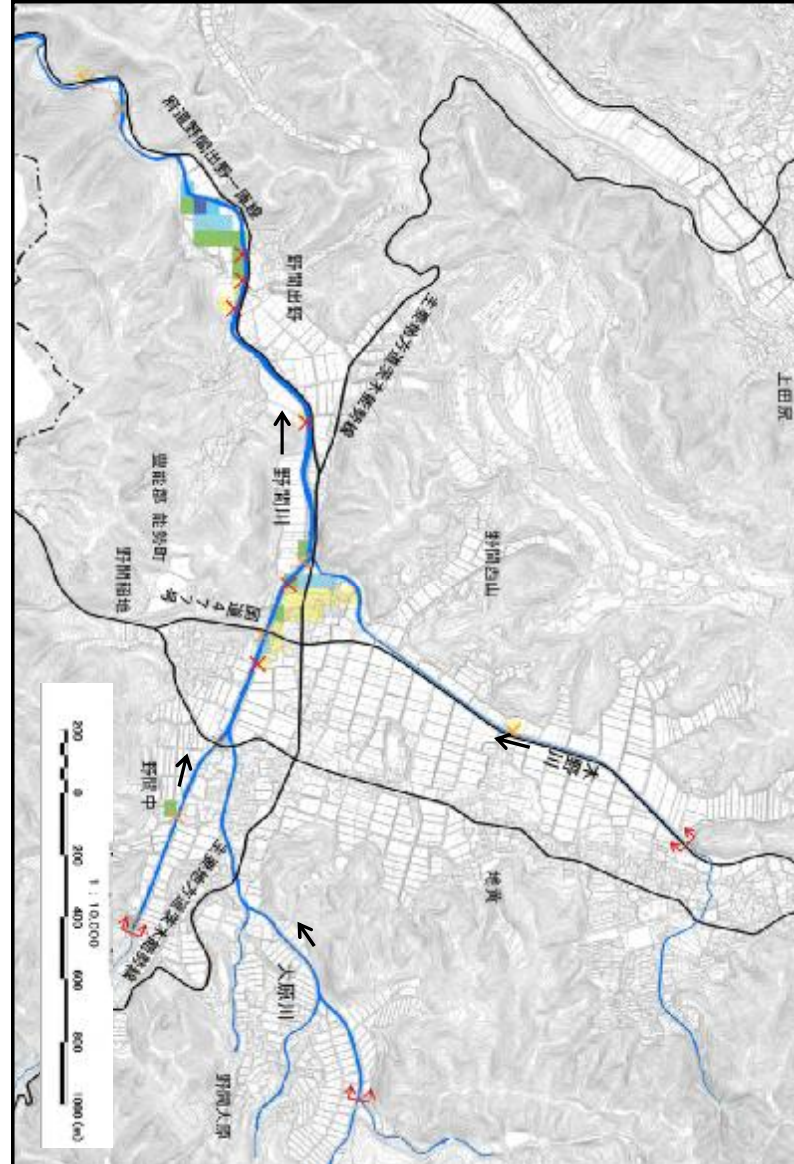
当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【野間川:50ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:65ミリ程度

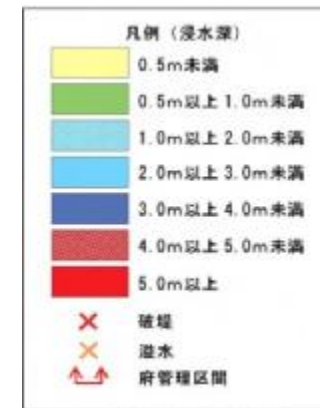
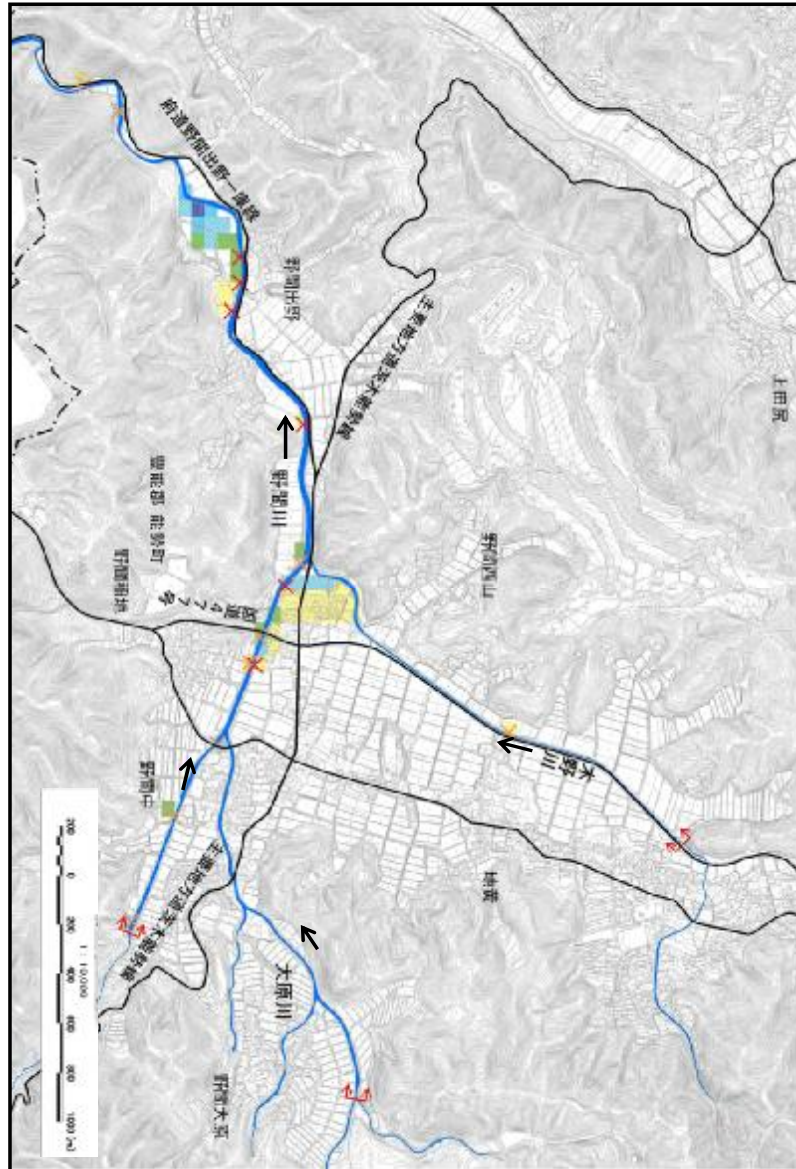


■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:80ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【野間川:50ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【野間川:50ミリ程度対策後における氾濫解析】

◆ 50ミリ程度対策後・・・時間雨量65ミリ程度、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ（人命への影響を及ぼす）の被害が発生する



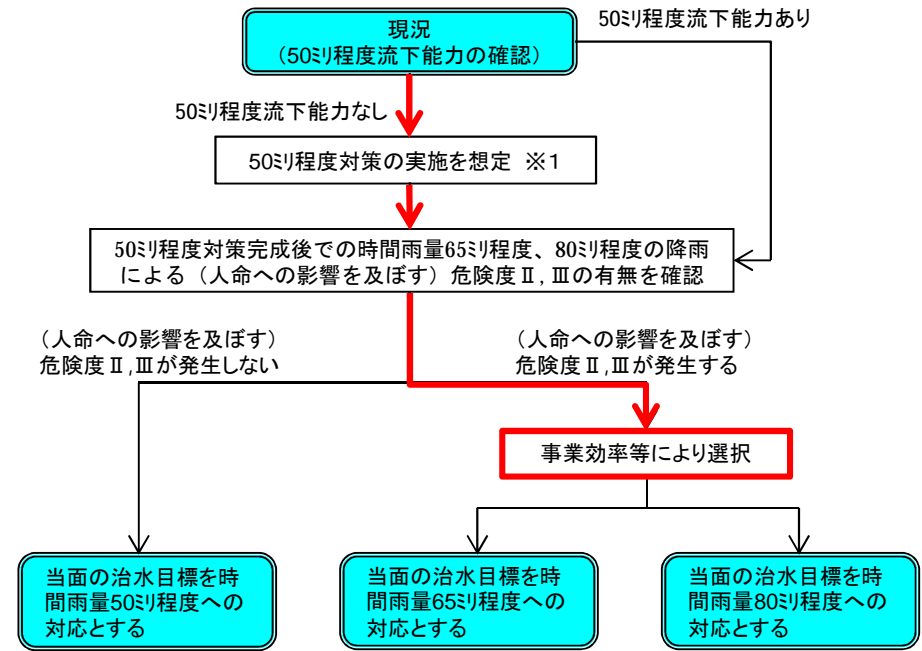
当面の治水目標は、「事業効率等により選択」する

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30程度)	2.75ha 21人 29百万円	5.00ha 2人 87百万円	被害なし
80ミリ程度 (1/100程度)	4.50ha 17人 30百万円	6.00ha 13人 139百万円	0.25ha 0人 0百万円
90ミリ程度 (1/200程度)	6.00ha 17人 31百万円	6.25ha 23人 189百万円	0.25ha 0人 0百万円

発生頻度: 大 (top) → 小 (bottom)

被害の程度: 小 (left) → 大 (right)

床下浸水 (危険度Ⅰ)
床上浸水 (0.5m以上) (危険度Ⅱ)
壊滅的被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上) (危険度Ⅲ)



※1:「50ミリ程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

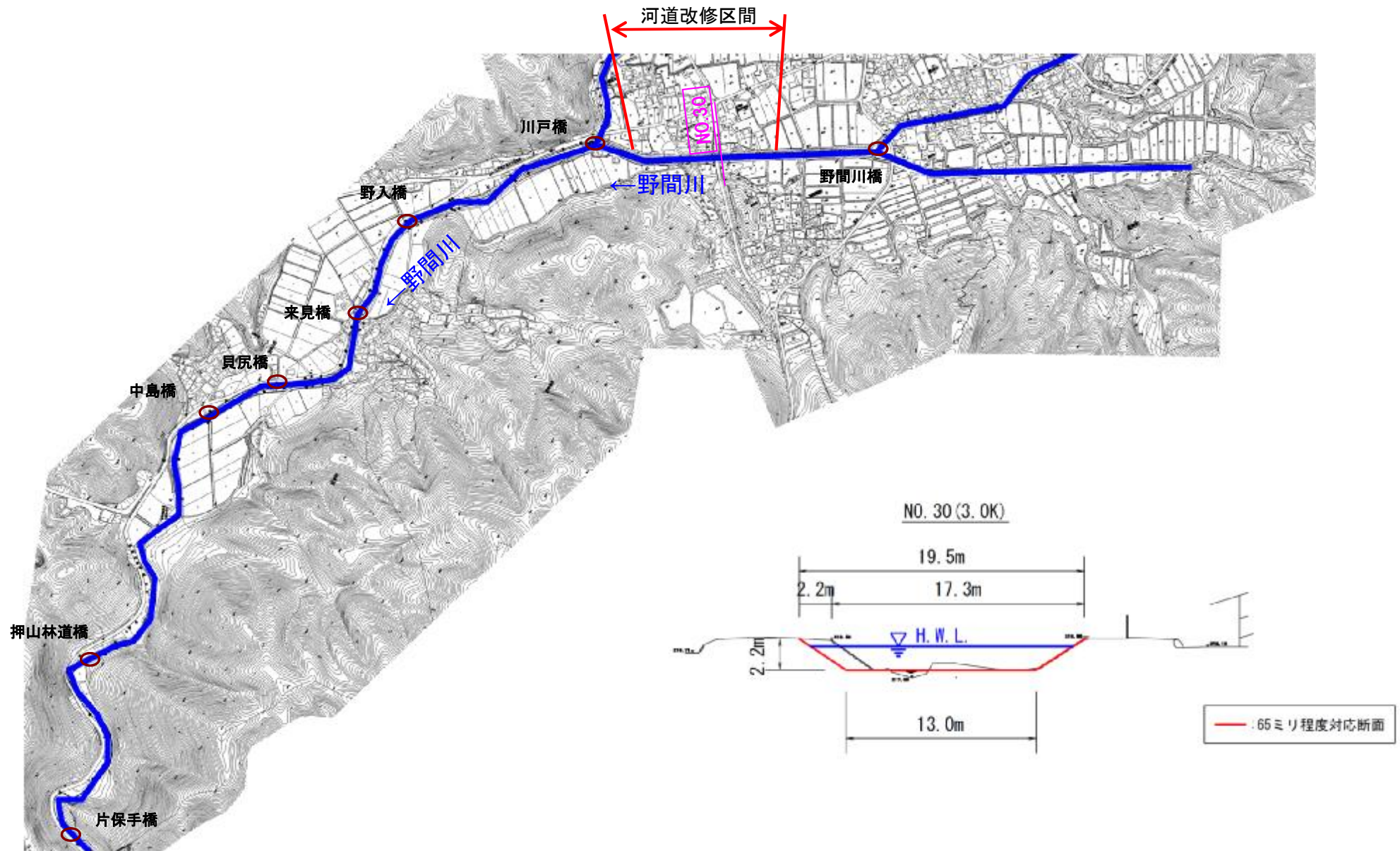
4.当面の治水目標の設定【野間川:65ミリ程度の治水手法の検討】

時間雨量65ミリ程度対策案は、以下の比較により「河道改修」とする

治水対策案	河道改修	遊水地
対策案の概要	河道拡幅を行うことで、河積を確保する。	耕作地等に遊水地を設置することで、洪水調節を図る。
治水上の評価 超過洪水への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現況河道の流下能力が向上する。 ・ 超過洪水に対しても一定の効果が見込まれる。 ・ 改修箇所から随時治水効果が発現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間の集中豪雨に対して高い効果が得られる。 ・ 下流全域に効果を発現する。 ・ 現況河道の流下能力の向上の割合が低い。 ・ 超過洪水に対する効果は低い。
自然環境上の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河道内の掘削を伴うため、河川環境に大きな影響を及ぼす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川内の影響は少ないが、遊水地を設置する耕作地の環境が改変する。
社会環境上の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用地買収を伴うため、沿川の土地利用に変化が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊水地設置のための大規模な用地買収を伴うため、土地利用の変化が大きい。
施工性・実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的な河川改修であり、施工性、実現性は高い。 ・ 用地買収を伴うため、施工に長期間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊水地設置可能な場所に限りがあるが、受益者と土地提供者が異なるため、大規模な用地取得が困難となる可能性がある。
概算事業費	2.4億円	19億円
総合評価	実現性が高く、事業費も安価である。	事業費が高く、大規模な用地買収を伴うため、実現性が低い。
	○	×

4.当面の治水目標の設定【野間川:65ミリ程度の治水手法の検討】

■65ミリ程度対応の河道改修の概要



4.当面の治水目標の設定【野間川:65ミリ程度対策後における氾濫解析】

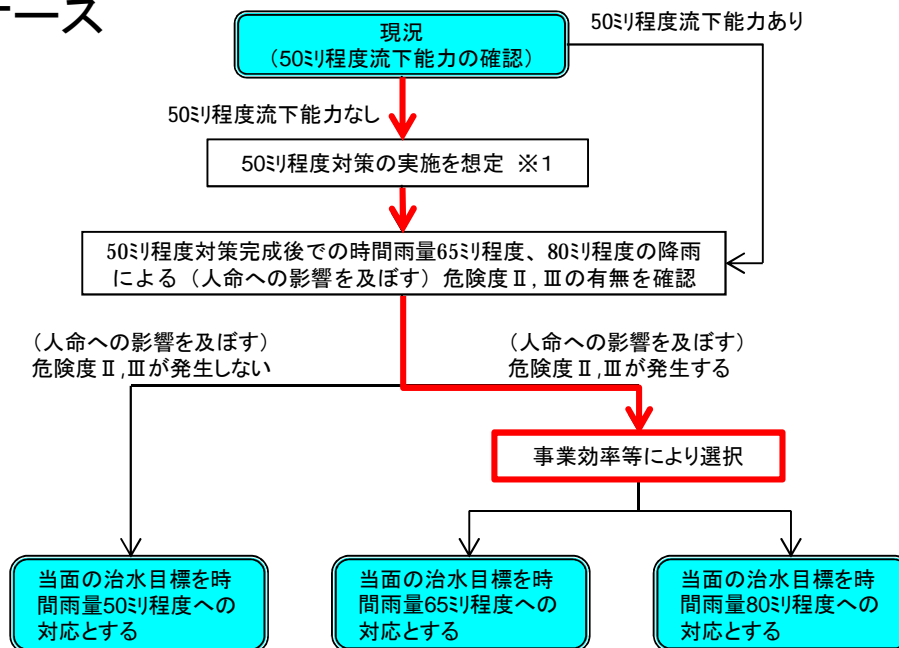
- ◆65ミリ程度対策後における危険度を氾濫解析により確認
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

＜解析条件＞

- ・65ミリ程度対策後を想定し、氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量80ミリ程度、90ミリ程度の2ケース
(中央集中型モデルハイエト)



野間川流域図



※1:「50ミリ程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や
 病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【野間川:65ミリ程度対策後における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:80ミリ程度

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



凡例 (浸水深)	
	0.5m未満
	0.5m以上 1.0m未満
	1.0m以上 2.0m未満
	2.0m以上 3.0m未満
	3.0m以上 4.0m未満
	4.0m以上 5.0m未満
	5.0m以上
×	破堤
×	溢水
↑ ↓	府管理区間

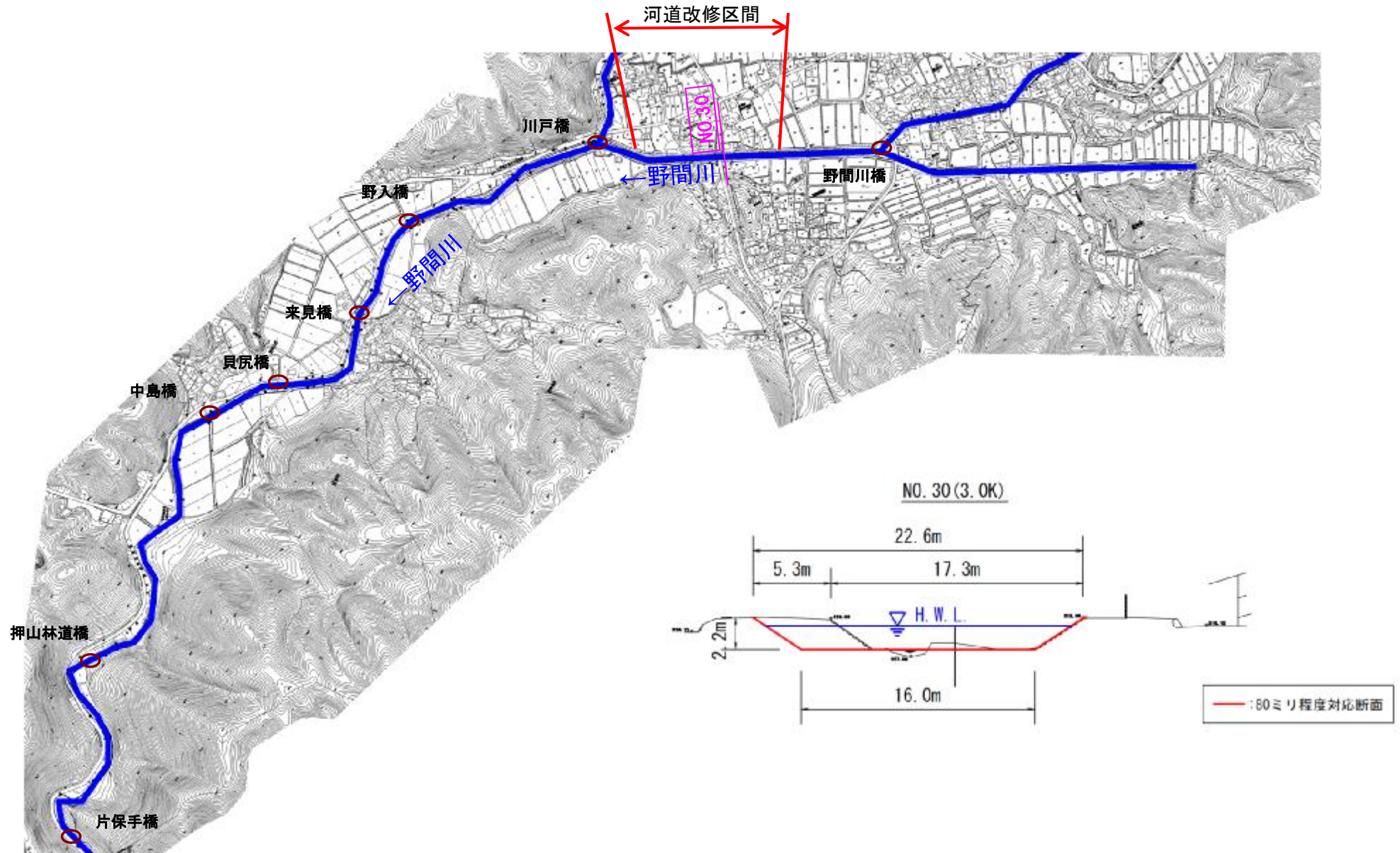
4.当面の治水目標の設定【野間川:80ミリ程度の治水手法の検討】

時間雨量80ミリ程度対策案は、以下の比較により「河道改修」とする

治水対策案	河道改修	遊水地
対策案の概要	河道拡幅を行うことで、河積を確保する。	耕作地等に遊水地を設置することで、洪水調節を図る。
治水上の評価 超過洪水への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現況河道の流下能力が向上する。 ・ 超過洪水に対しても一定の効果が見込まれる。 ・ 改修箇所から随時治水効果が発現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間の集中豪雨に対して高い効果が得られる。 ・ 下流全域に効果を発現する。 ・ 現況河道の流下能力の向上の割合が低い。 ・ 超過洪水に対する効果は低い。
自然環境上の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河道内の掘削を伴うため、河川環境に大きな影響を及ぼす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川内の影響は少ないが、遊水地を設置する耕作地の環境が改変する。
社会環境上の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用地買収を伴うため、沿川の土地利用に変化が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊水地設置のための大規模な用地買収を伴うため、土地利用の変化が大きい。
施工性・実現性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般的な河川改修であり、施工性、実現性は高い。 ・ 用地買収を伴うため、施工に長期間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遊水地設置可能な場所に限りがあるが、受益者と土地提供者が異なるため、大規模な用地取得が困難となる可能性がある。
概算事業費	2.8億円	44億円
総合評価	実現性が高く、事業費も安価である。	事業費が高く、大規模な用地買収を伴うため、実現性が低い。
	○	×

4.当面の治水目標の設定【野間川:80ミリ程度の治水手法の検討】

■80ミリ程度対応の河道改修の概要

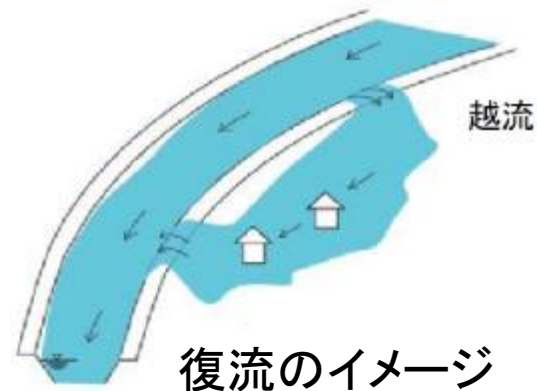


4.当面の治水目標の設定【野間川:80ミリ程度対策後における氾濫解析】

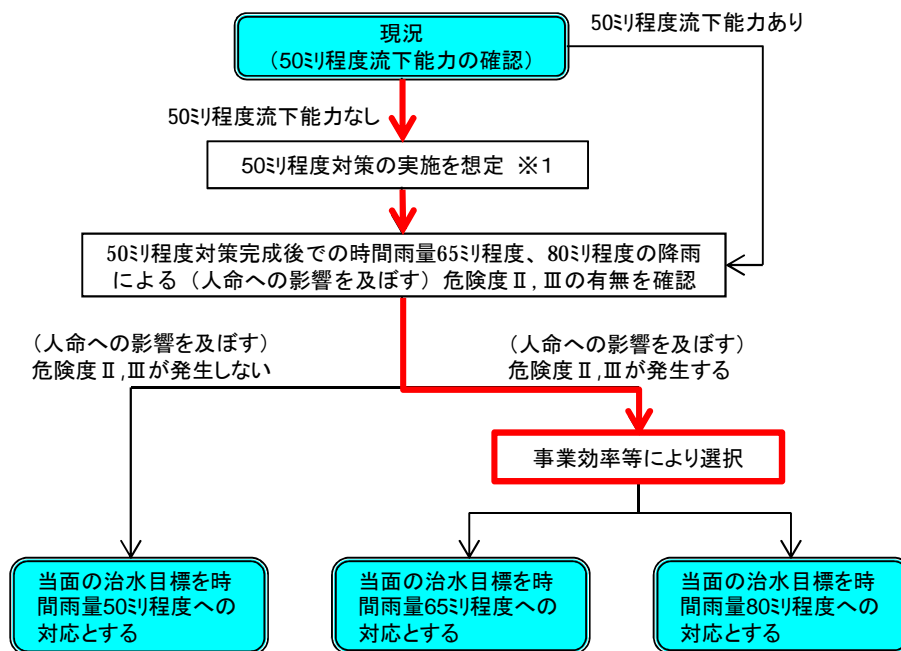
- ◆80ミリ程度対策後における危険度を氾濫解析により確認
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

＜解析条件＞

- ・80ミリ程度対策後を想定し、氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量90ミリ程度の1ケース
(中央集中型モデルハイエト)



野間川流域図

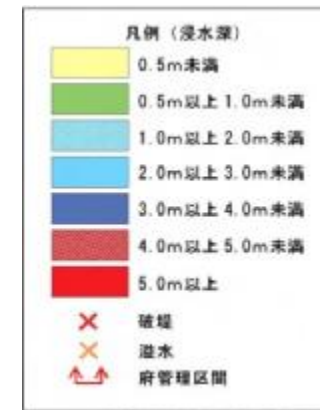
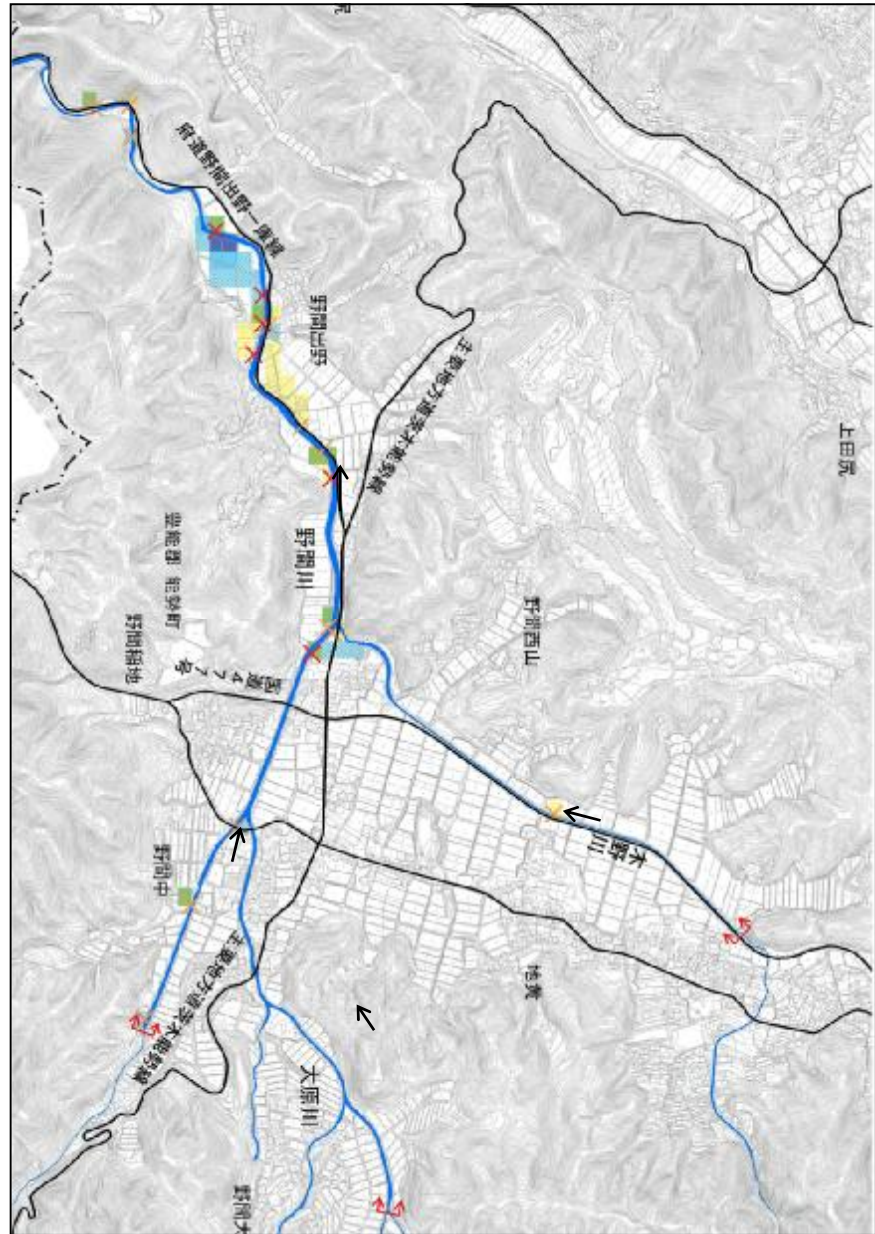


※1:「50ミリ程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【野間川:80ミリ程度対策後における氾濫解析】

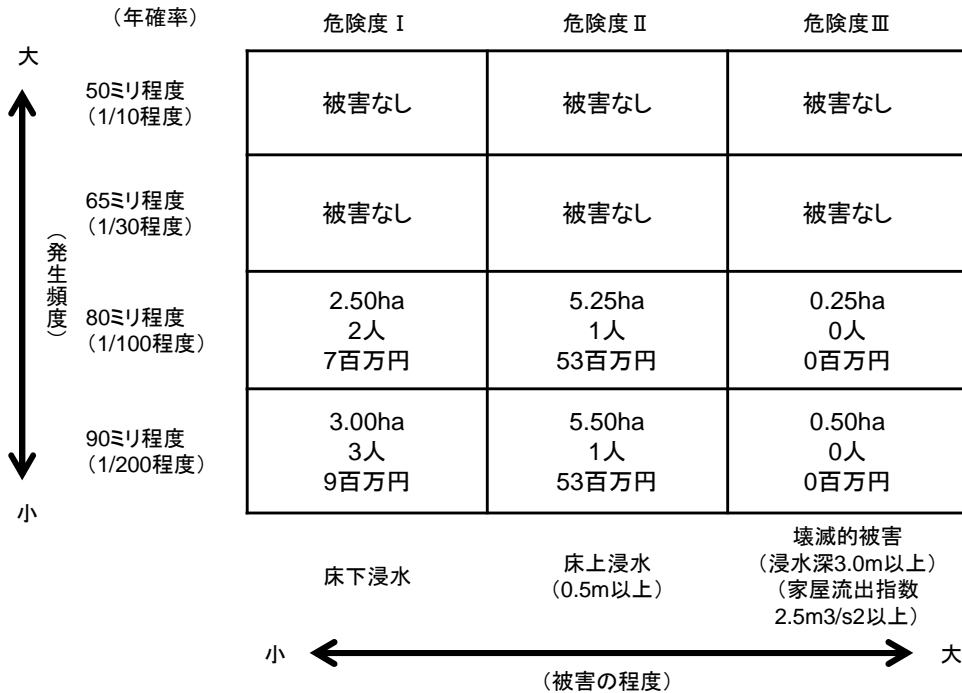
■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【野間川】

◆事業効率等による当面の治水目標の設定

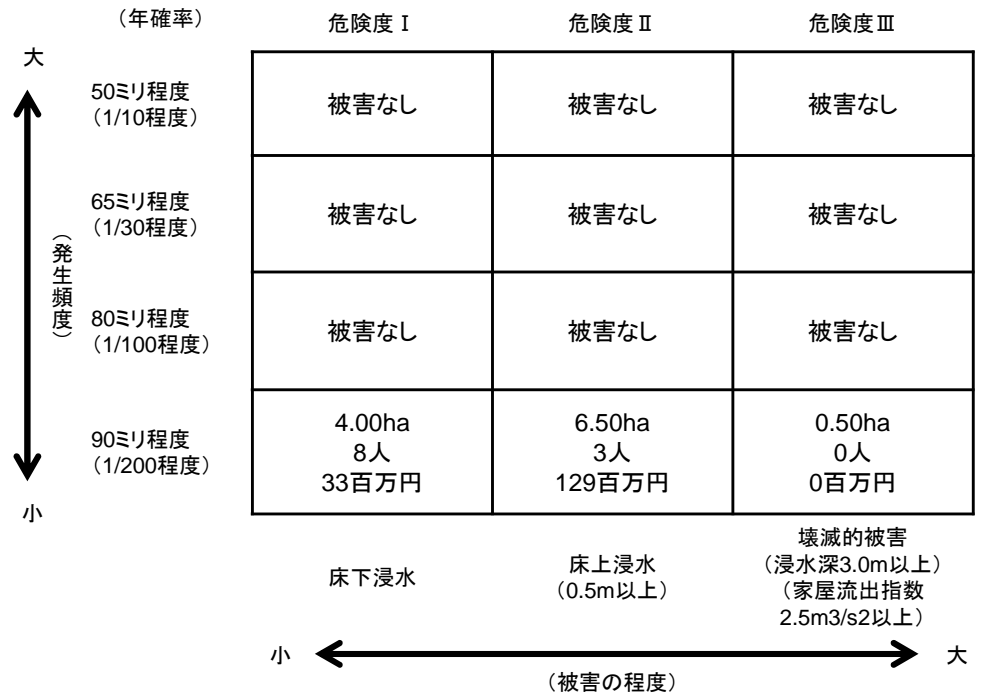
(65ミリ程度対応河道)



(現況河道から65ミリ程度対応への評価)

効果: 643 百万円
 費用: 630 百万円
 純現在価値: 13 百万円
 費用便益比: 1.02

(80ミリ程度対応河道)



(現況河道から80ミリ程度対応への評価)

効果: 662 百万円
 費用: 666 百万円
 純現在価値: -4 百万円
 費用便益比: 0.99



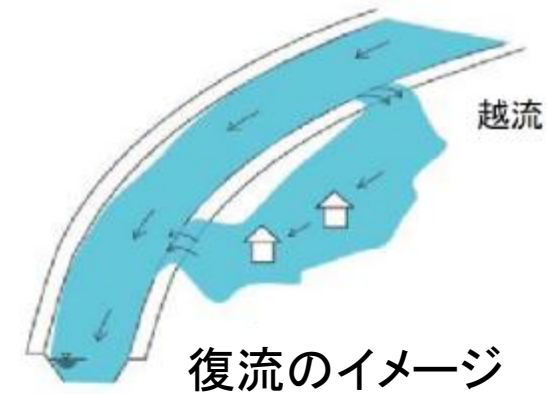
当面の治水目標を、「**時間雨量65ミリ程度**」への対応とする

4.当面の治水目標の設定【木野川:現況河道における氾濫解析】

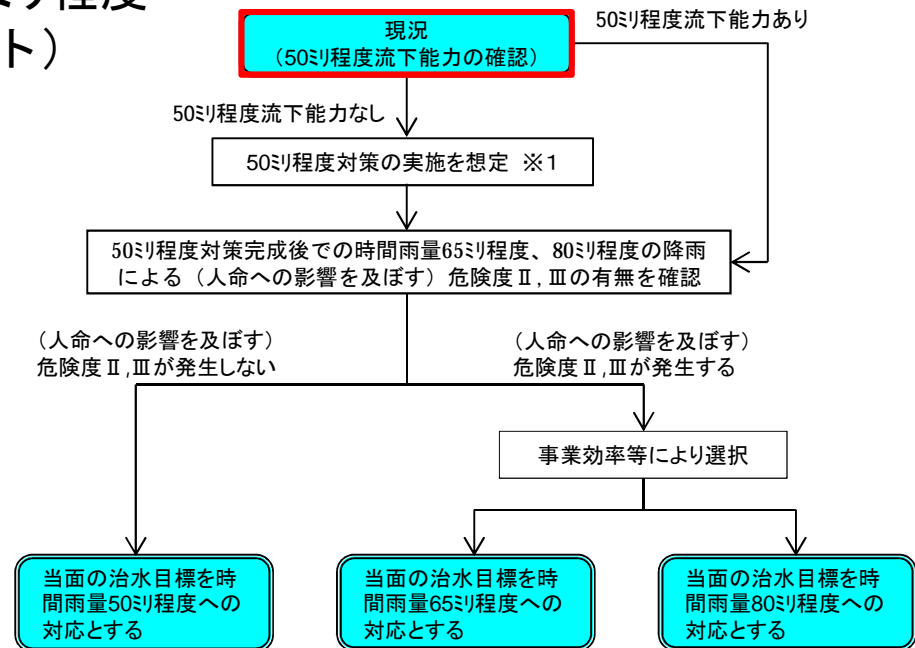
- ◆具体的な検討は『当面の治水目標の設定フロー』に従って実施
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

<解析条件>

- ・現況河道で氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度
90ミリ程度の4ケース(中央集中型モデルハイエト)



野間川流域図(木野川)



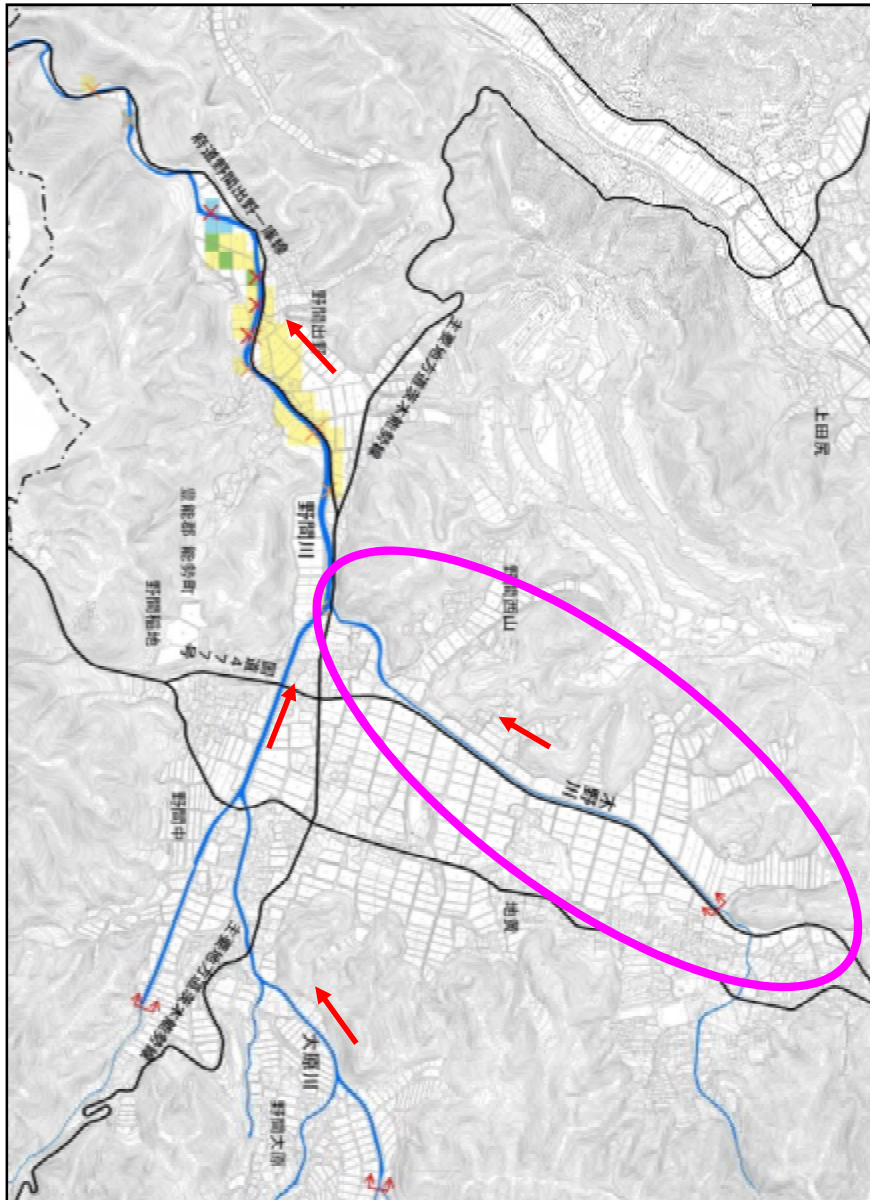
※1:「50mm程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー

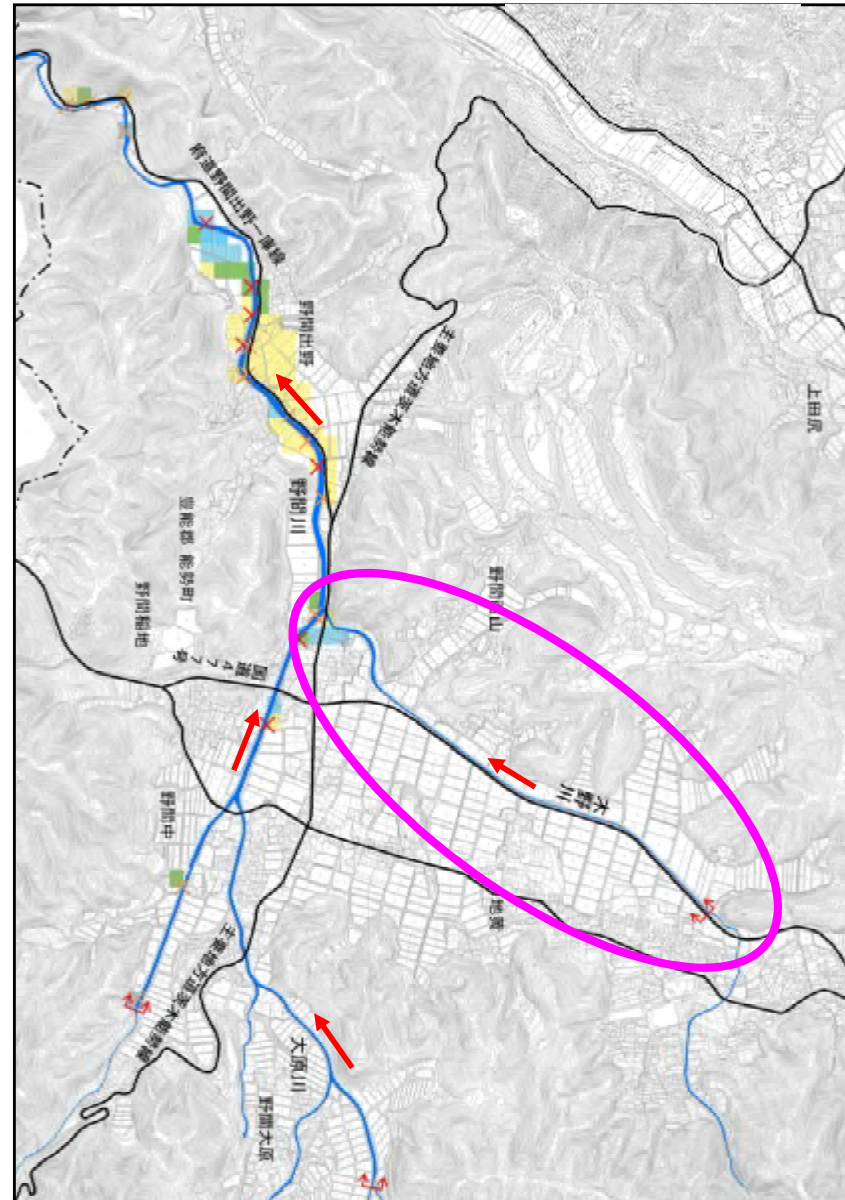
4.当面の治水目標の設定【木野川:現況河道における氾濫解析】

木野川は、現況河道において、時間雨量50ミリ程度の流下能力を有する

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:50ミリ程度



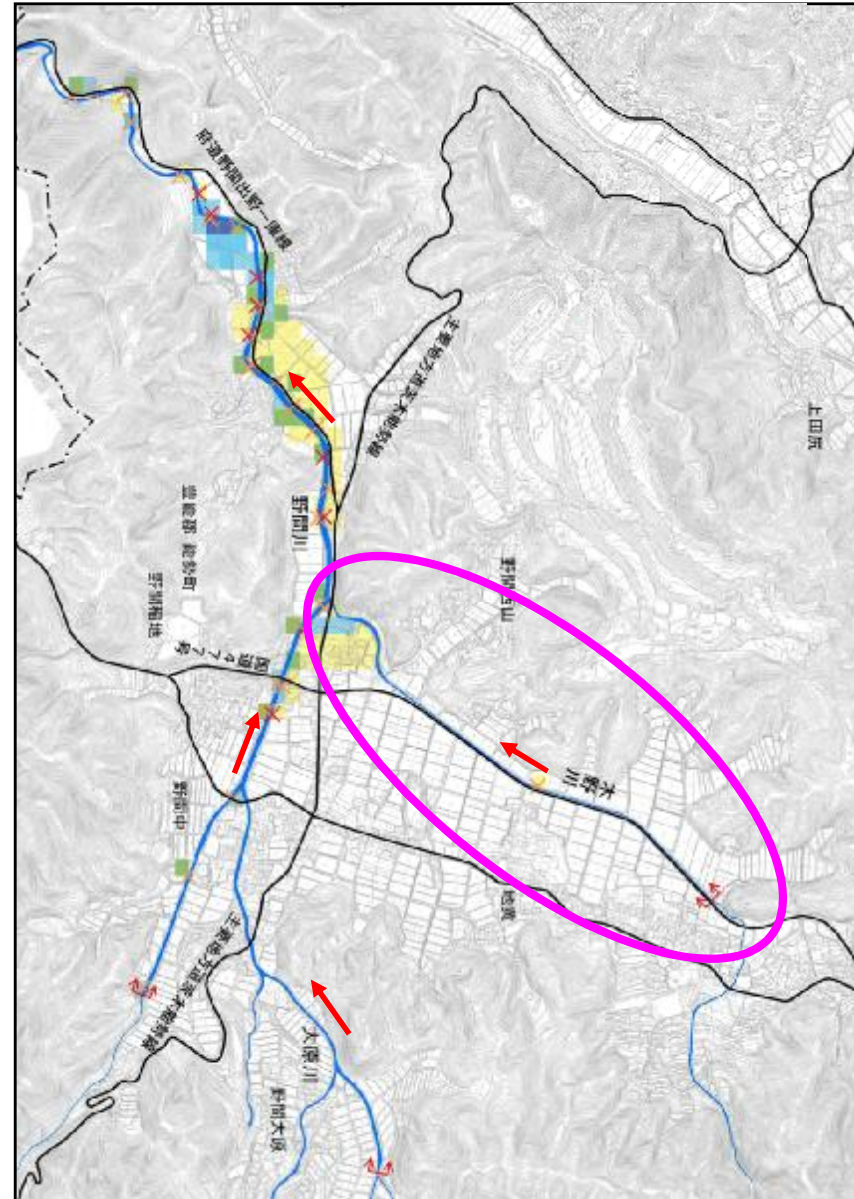
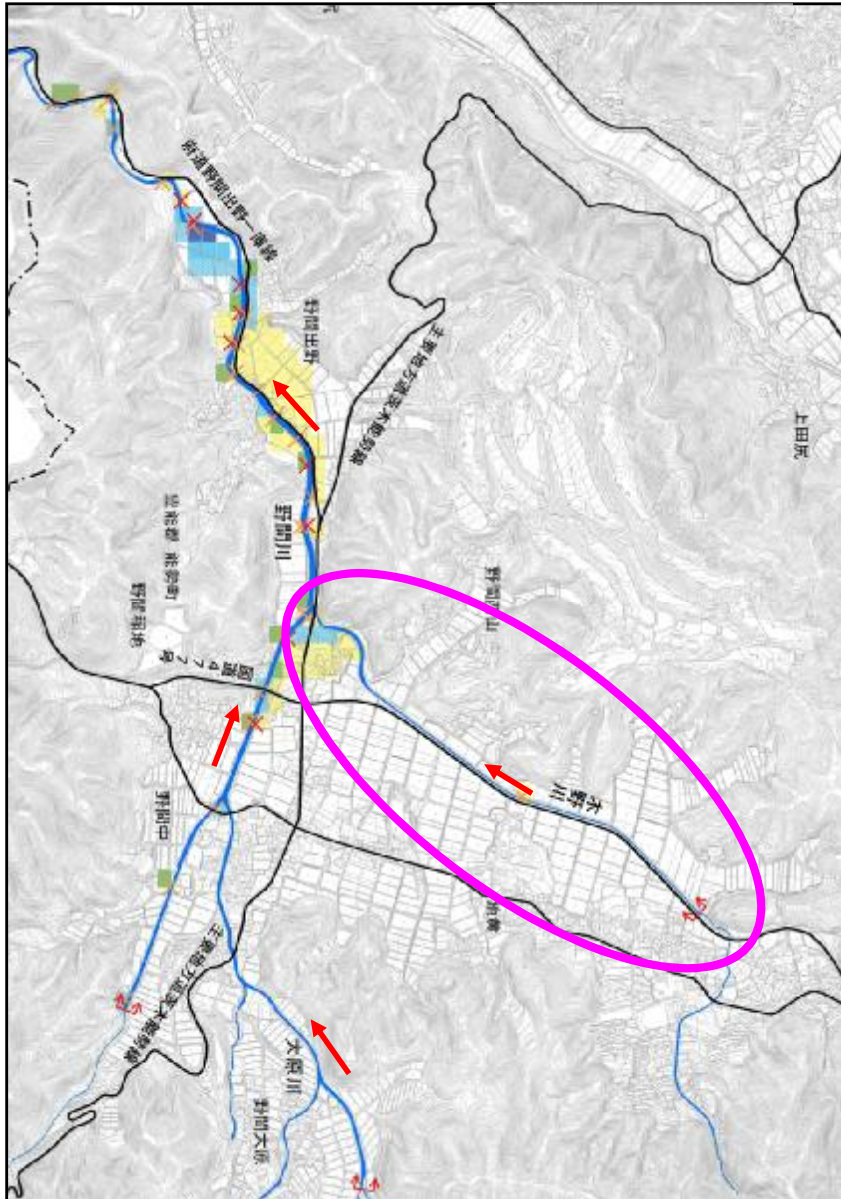
■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:65ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【木野川:現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:80ミリ程度

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【木野川:現況河道における氾濫解析】

◆現況河道(木野川)・・・時間雨量50ミリ程度の降雨で浸水は想定されない
 時間雨量65ミリ程度、80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱ、Ⅲの被害が発生しない

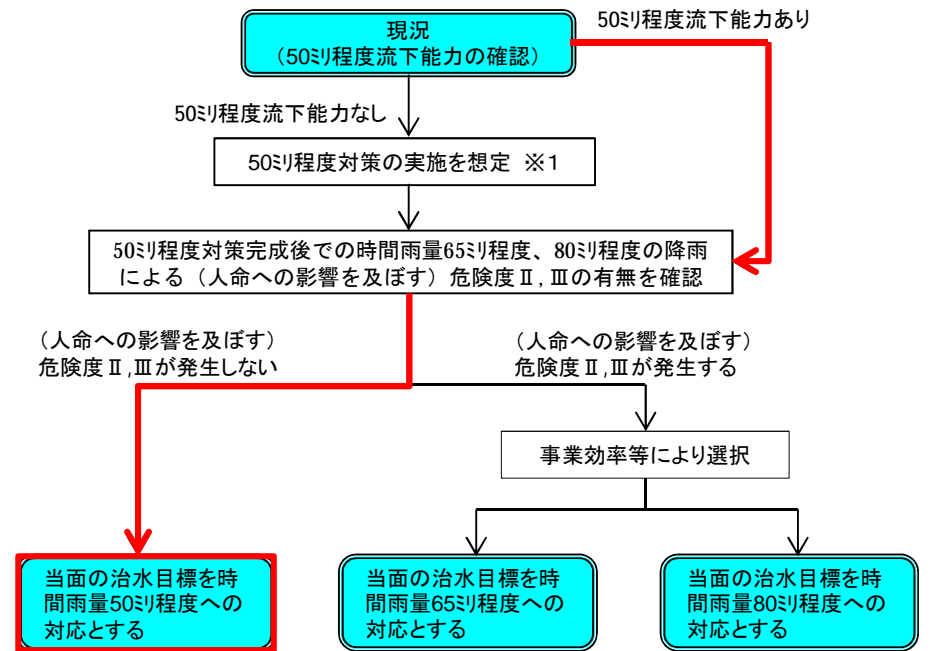


木野川の当面の治水目標は時間雨量50ミリ程度対応となる。
 木野川は、当面の間、目標とすべき治水レベルに達しているため、「**現状維持**」とする。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30程度)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100程度)	0.25ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (1/200程度)	0.25ha 0人 0百万円	被害なし	被害なし

床下浸水 床上浸水 (0.5m以上) 壊滅的被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

(被害の程度) ← 小 大 →



※1:「50mm程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

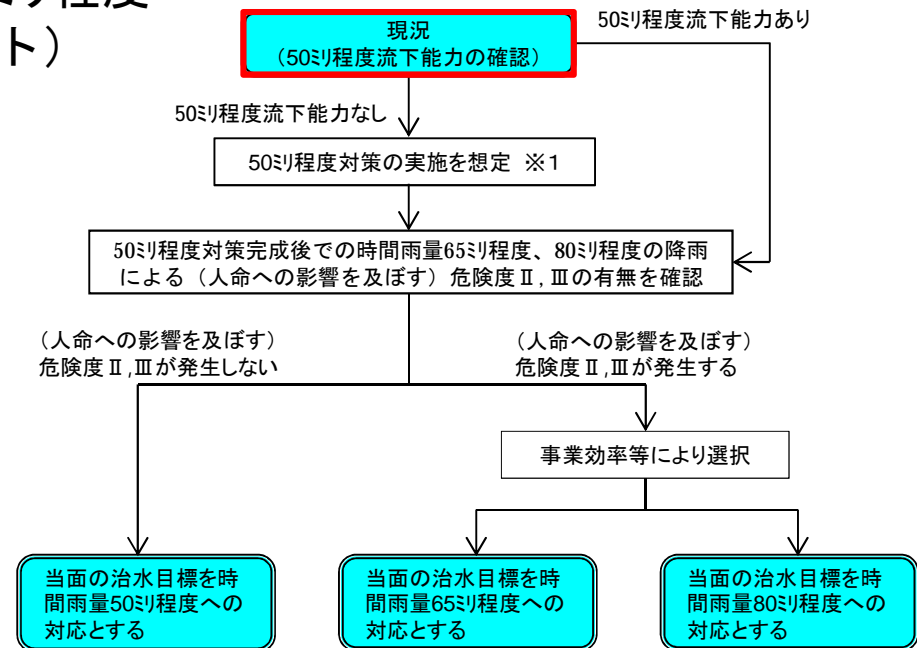
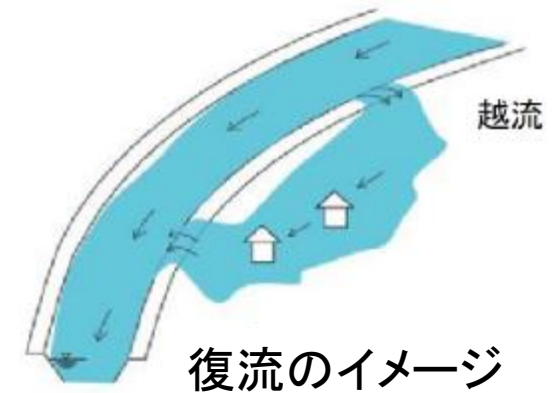
当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【大原川:現況河道における氾濫解析】

- ◆具体的な検討は『当面の治水目標の設定フロー』に従って実施
- ◆氾濫解析の前提条件は以下の通り

<解析条件>

- ・現況河道で氾濫解析を実施
- ・河道と氾濫原を一体的に解析し、河道への復流を考慮したモデル
- ・氾濫原のメッシュサイズは50m
- ・対象降雨は時間雨量50ミリ程度、65ミリ程度、80ミリ程度
90ミリ程度の4ケース(中央集中型モデルハイエト)



※1:「50mm程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や
病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

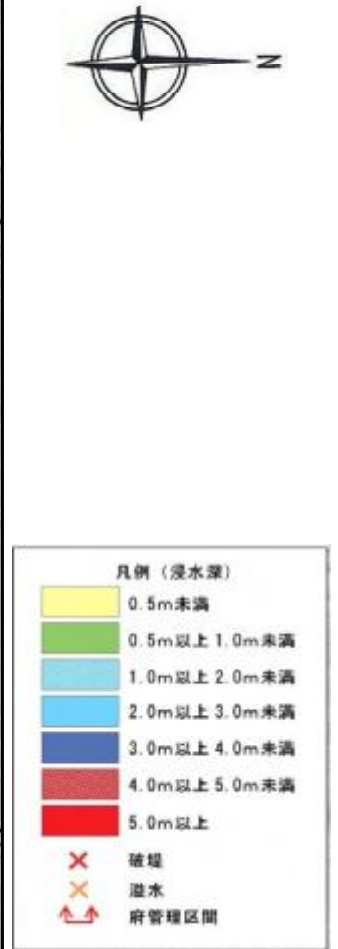
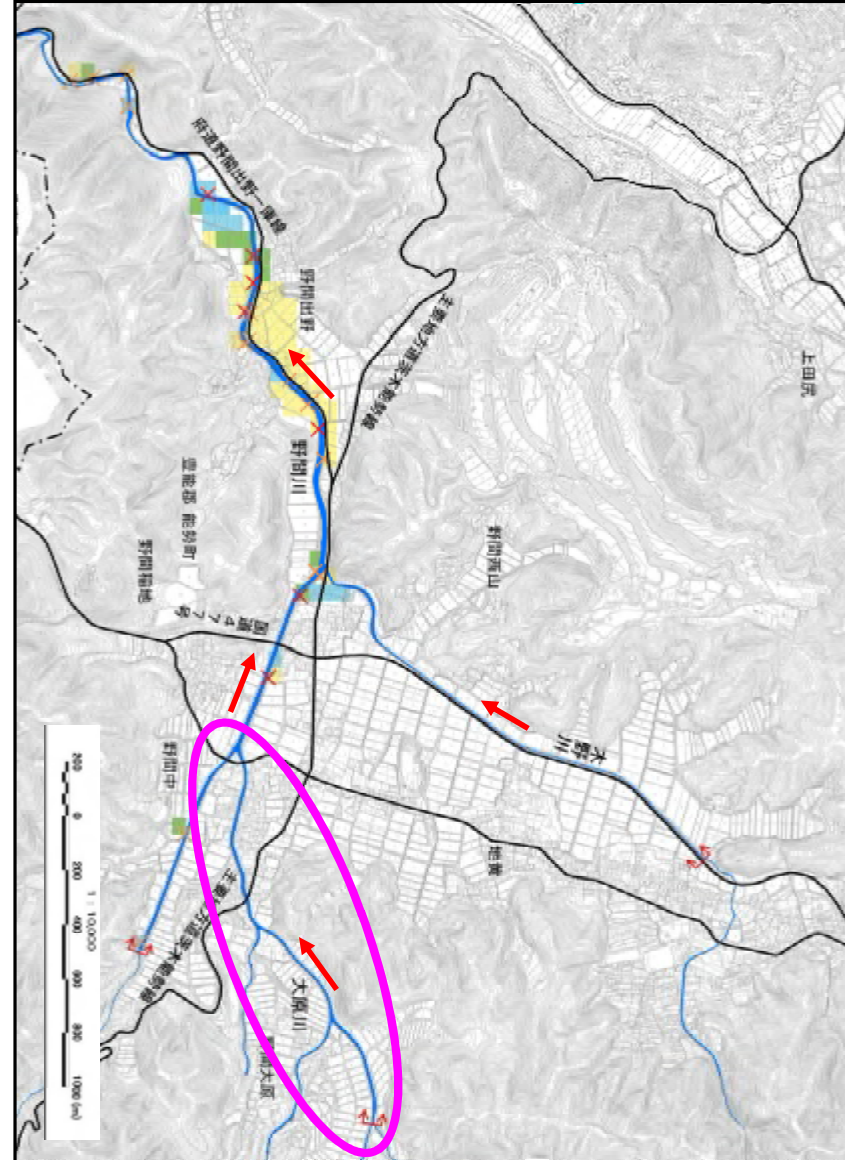
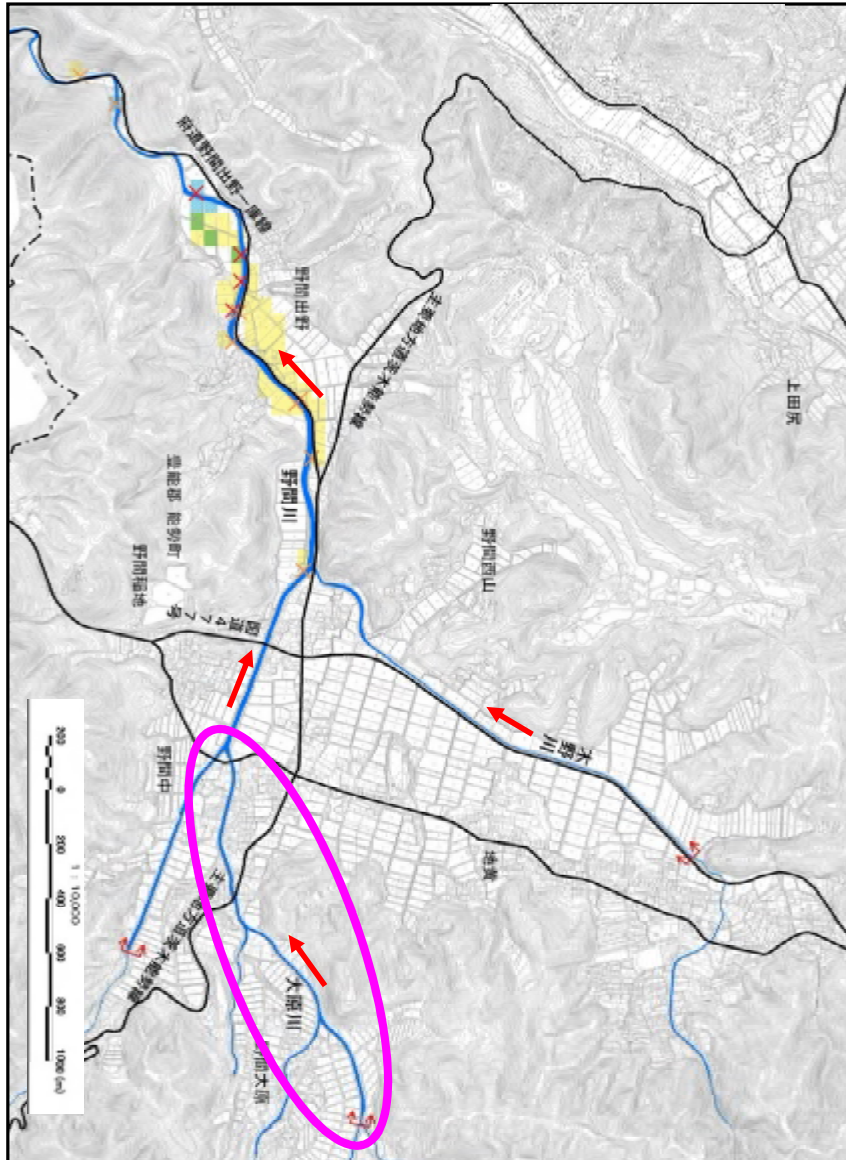
当面の治水目標の設定フロー

4.当面の治水目標の設定【大原川:現況河道における氾濫解析】

大原川は、現況河道において、時間雨量50ミリ程度の流下能力を有する

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:50ミリ程度

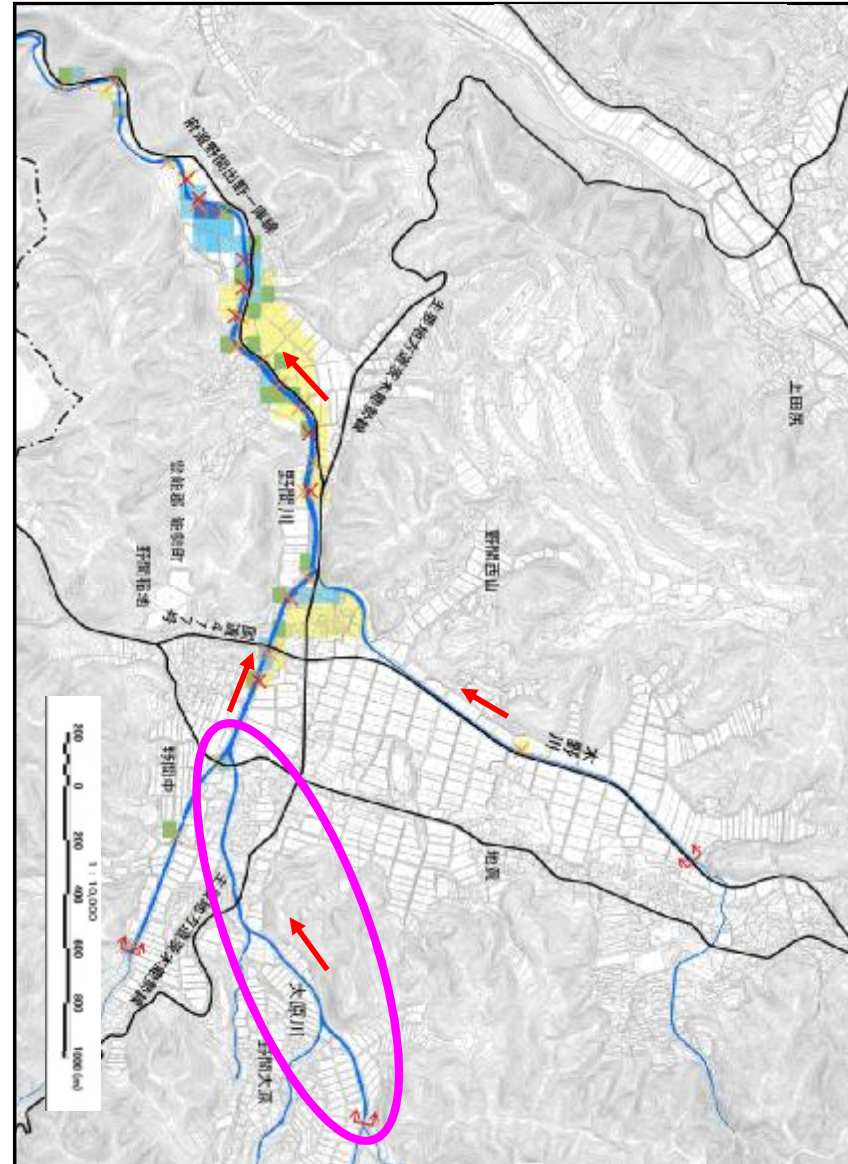
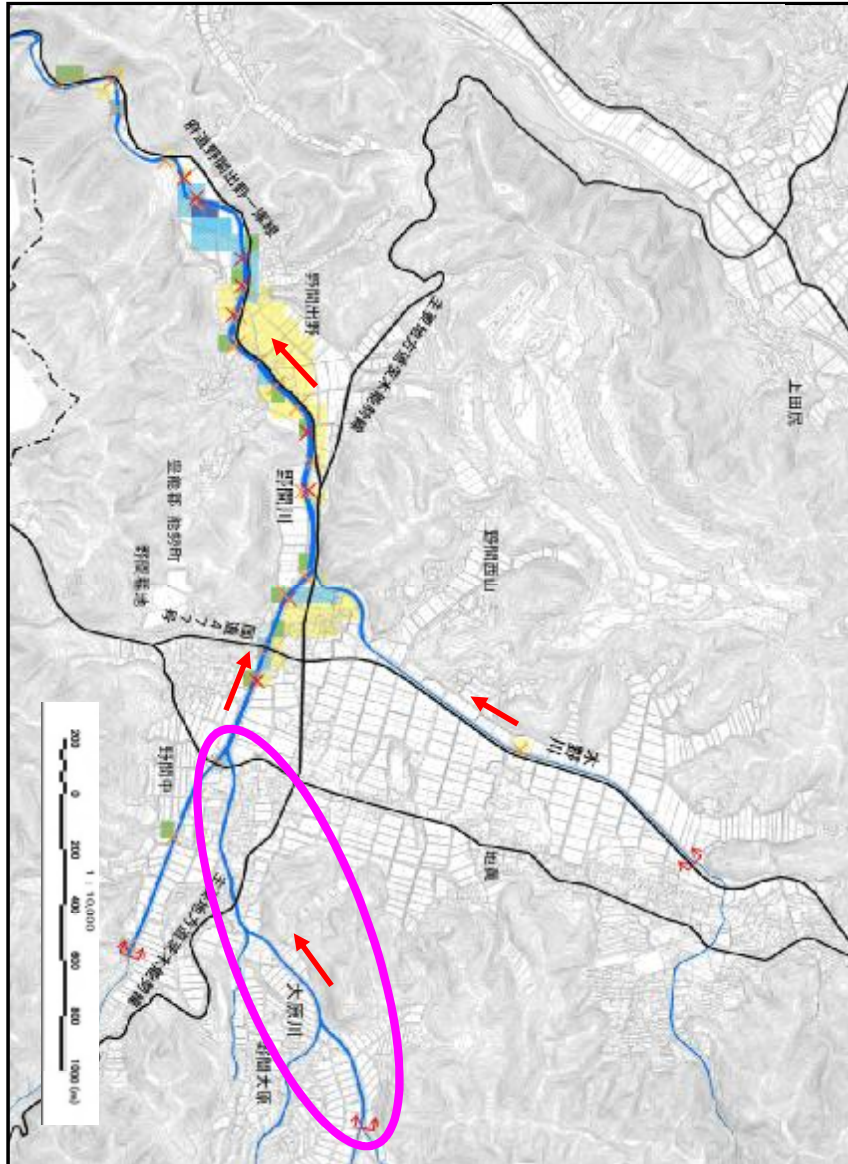
■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:65ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【大原川:現況河道における氾濫解析】

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:80ミリ程度

■ 氾濫解析結果(浸水深)対象降雨:90ミリ程度



4.当面の治水目標の設定【大原川:現況河道における氾濫解析】

◆現況河道(大原川)・・・時間雨量50ミリ程度の降雨で浸水は想定されない
 時間雨量65ミリ程度、80ミリ程度の降雨で浸水は想定されない

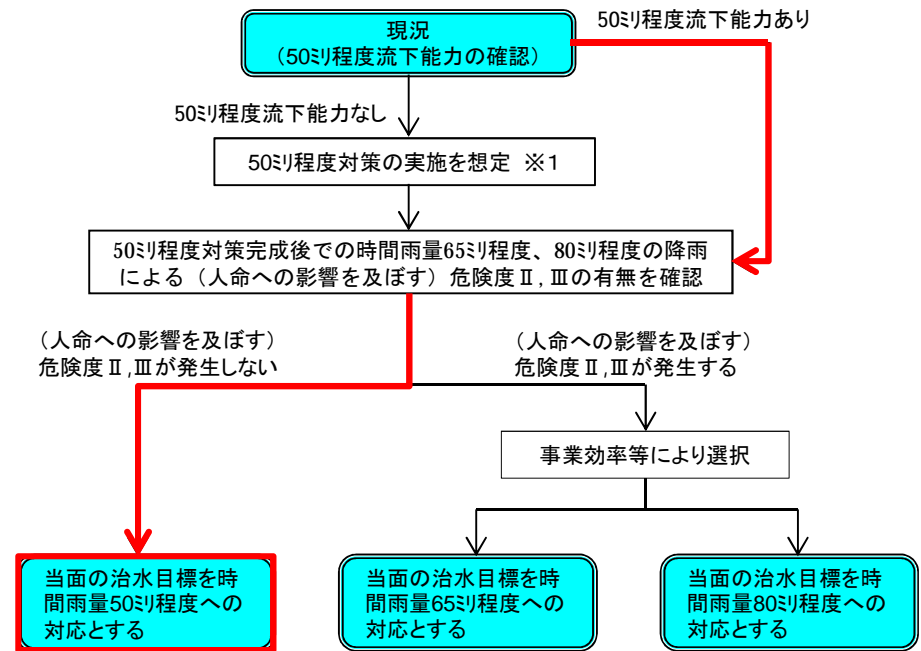


大原川の当面の治水目標は時間雨量50ミリ程度対応となる。
 大原川は、当面の間、目標とすべき治水レベルに達しているため、「**現状維持**」とする。

(年確率)	危険度Ⅰ	危険度Ⅱ	危険度Ⅲ
50ミリ程度 (1/10程度)	被害なし	被害なし	被害なし
65ミリ程度 (1/30程度)	被害なし	被害なし	被害なし
80ミリ程度 (1/100程度)	被害なし	被害なし	被害なし
90ミリ程度 (1/200程度)	被害なし	被害なし	被害なし
	床下浸水	床上浸水 (0.5m以上)	壊滅的被害 (浸水深3.0m以上) (家屋流出指数 2.5m3/s2以上)

発生頻度 ↑ (大) ↓ (小)

被害の程度 ← (小) → (大)



※1:「50mm程度対策の実施を想定」の対象は、人命への影響ありと想定される河川区間とする。
 なお、「人命への影響を及ぼす」とは、家屋、または不特定多数の利用が見込まれる施設や病院・学校等の公共的施設を有するものとする。

当面の治水目標の設定フロー